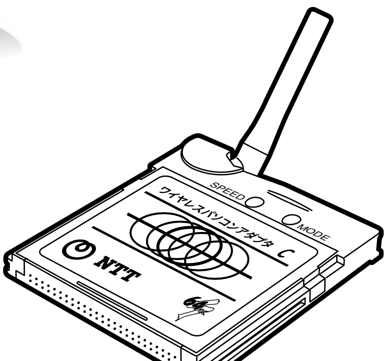
NTT

ワイヤレスパソコンアダプタC
取扱説明書

このたびは、ワイヤレスパソコンアダプタCをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

●ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

●お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



技術基準適合認証品

W-64C1

1 お使いになる前に
2 使ってみる
3 環境設定ソフトを使う
4 ATコマンド
5 ご参考に

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

- ご使用の際は、取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤作動、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本商品の付属ソフトウェアは、日本語版のOS上でご使用になることを前提としています。それ以外の環境では、動作を保証しておりません。
- 本商品の付属ソフトウェアを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- データ通信の設定は、お客様の責任にもとづいて行ってください。通信設定の誤りから生ずる通信料および通信できないことによる障害等は当社では責任を負いかねますので、あらかじめ御了承ください。
- この取扱説明書、ソフトウェア、および外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

⚠警告

●本商品を医療機器や高い安全性が要求される用途では使用しないでください。
- 人が死亡または重傷を負ったり、社会的に大きな混乱が発生する原因となることがあります。
- 本商品は一般通信機器（端末用）として使用されることを前提に設計されていますので、おもに一般オフィスや家庭のOA機器として、ご使用ください。

●本商品を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●お客様がご用意された機器を本商品に接続してお使いになる場合は、当該機器が本商品のインタフェースに適合することを確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。
不適合の機器を接続した場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。なお、機器の適合性についてご不明の場合は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店にご連絡ください。

●本商品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

●航空機内や病院内などの使用を禁止された区域では電源を切るか、持ち込まないでください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因になります。

⚠注意

●高い信頼性を要求される、幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。
- 社会的に大きな混乱が発生する原因となることがあります。
- 使用されるときには、システム側でリカバリーやバックアップなどの万一の故障に対する適切な処置をしてください。
- 必ず当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へご相談願います。

●万一、本商品から異臭、異音、煙が発生したときは、パソコンなどの電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
火災の原因となることがあります。

●落雷の恐れがあるときは、端末機器の電源を切ってください。
落雷により本商品が破損し、発煙、発火の原因となることがあります。

●本書に記載されている周囲環境条件から外れた使用、保管は絶対しないでください。本商品の故障、破損などによって、火災の原因となることがあります。
下記の環境には特にご注意ください。
- 自動車内等の直射日光の当たる場所
- 高温下や発熱する器具の近く
- 極端に湿度の高い場所や水漏れの可能性がある場所
- ほこりの多い場所
- 油煙の当たる場所
- 衝撃を受けたり振動が加わるような不安定な場所
- ラジオやテレビなどのすぐ近く

●ぬれた手で本商品を操作しないでください。
感電・故障の原因となります。

⚠注意

●下記のような事故が発生したら、必ず修理、点検を依頼してください。そのまま使用されると、重大事故が発生する原因となることがあります。 • 60 cm以上の高さから落下させてしまったとき • 水やコーヒーなどの液体をかけてしまったとき
●本商品と他の機器を接続するときは、機器の電源を切った状態で行ってください。 電源を入れたまま接続すると、故障の原因となり発煙、発火の原因となることがあります。
●アンテナに無理な力を加えないでください。 故障の原因となることがあります。本商品を取り外すときは、アンテナを持たずにカード部分を持って抜いてください。

STOP お願い

●落としたり、強い衝撃を与えないでください。
故障の原因となることがあります。

●故障の原因となりますので、次のような場所への設置は避けてください。
- 製氷倉庫など特に温度が下がる場所
- 塵・ほこり・鉄粉・有害ガスなどが発生する場所

●金属製家具などの近くは避けてください。
- 電波が飛びにくくなります。

お願い

●本商品は、第2種情報装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）です。本商品をラジオ、テレビに接近してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。本書に従って、正しく使用してください。

●電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、ファクス、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く雑音が大きいときは、使用場所を移動してみてください。電波が強すぎるときは、本商品が使用できないことがあります。

●硫化水素が発生する場所（温泉地など）では、本商品などの寿命が短くなることがあります。

●本商品を操作する前に電波の状態を確認して、なるべく電波の強い場所でご使用ください。また、通信は、なるべく電波の強い場所で行ってください。電波の状態を確認するには、P22をご覧ください。

お願い

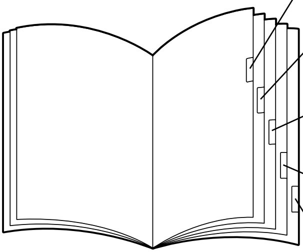
- 屋外で使用するときは、雨が当たらないようにご使用ください。
- 浴室で使用したり、水をつけたりしないでください。
- 水滴が付いた場合は、なるべく早く乾いた布などでふき取ってください。
- ぬれたまま、0 ℃以下になる場所に放置しないでください。
- 本商品に水滴が付いたまま、パソコンなどに接続しないでください。
- 持ち運ぶときは、パソコンなどから取り外し、付属の専用ケースに入れてください。
- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください（本商品などの変色や変形の原因となります）。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 長期間無人で使用する場合は、正しく動作していることを必ず定期的に確認してください。

お願い

●付属のソフトウェア（フロッピーディスク）は下記のことに注意して、使用してください。
- 万一の事故に備えて、バックアップコピーをしておいてください。
- 本ソフトウェアは日本国著作権法により、お買い求めいただいた方のみに使用を許諾するものです。
- 第三者に譲渡はできますが、上記の条件に同意いただいた方のみに使用の許諾をするものです。
- 本ソフトウェアの最新性、使用したときの成果の適格性、正確性、信頼性などに関しての保証はしません。成果や機能についてのリスクはすべて購入者（使用者）に負担していただくことになります。

●付属のソフトウェア（フロッピーディスク）は下記のことを守って使用してください。
- 折り曲げない
- 高湿、高温、直射日光、ほこりのなかで保管しない
- 磁気を近づけない
- 磁気面を触らない
- ライトプロテクトを外さない

この取扱説明書の構成



1 お使いになる前に

本商品をご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

2 使ってみる

Windows® 95/98/Me/2000での使い方について説明しています。

3 環境設定ソフトを使う

環境設定ソフトのインストール方法と使いかたについて説明しています。

4 ATコマンド

本商品がサポートしているATコマンドについて説明しています。

5 ご参考に

PHS公衆モードでのデータ通信、故障かな？と思ったときの確認方法などについて説明しています。

この取扱説明書の見かた

操作説明のページの構成

章タイトル

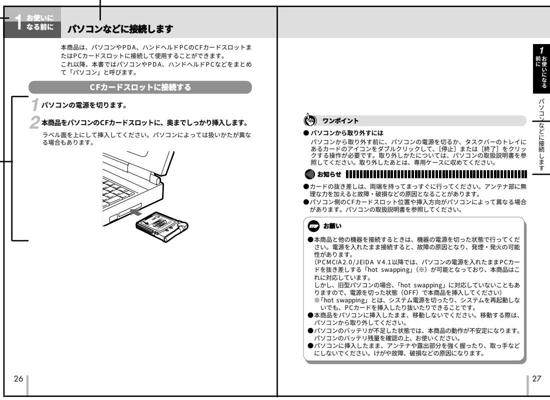
章ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント

知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。



1 お使いになる前に　**パソコンなどに接続します**

本商品は、パソコンやPDA、ハンドヘルドPCのCFカードスロットまたはPCカードスロットに接続して使用することができます。
これ以降、本書ではパソコンやPDA、ハンドヘルドPCなどをまとめて「パソコン」と呼びます。

CFカードスロットに接続する

1 **パソコンの電源を切ります。**

2 **本商品をパソコンのCFカードスロットに、奥までしっかり挿入します。**

ラベル面を上にして挿入してください。パソコンによっては扱いかたが異なる場合もあります。

26

1 お使いになる前に　パソコンなどに接続します

ワンポイント

● **パソコンから取り外すには**

パソコンから取り外す前に、パソコンの電源を切るか、タスクバーのトレイにあるカードのアイコンをダブルクリックして、［停止］または［終了］をクリックする操作が必要です。取り外しかたについては、パソコンの取扱説明書を参照してください。取り外したあとは、専用ケースに収めてください。

お知らせ

●カードの抜き差しは、両端を持ってまっすぐに行ってください。アンテナ部に無理な力を加えると故障・破損などの原因となることがあります。
●パソコン側のCFカードスロット位置や挿入方向がパソコンによって異なる場合があります。パソコンの取扱説明書を参照してください。

お願い

●本商品と他の機器を接続するときは、機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま接続すると、故障の原因となり、発煙・発火の可能性があります。
（PCMCIA2.0/JEIDA V4.1以降では、パソコンの電源を入れたままPCカードを抜き差しする「hot swapping」（※）が可能となっており、本商品はこれに対応しています。
しかし、旧型パソコンの場合、「hot swapping」に対応していないこともありますので、電源を切った状態（OFF）で本商品を挿入してください）
※「hot swapping」とは、システム電源を切ったり、システムを再起動しないでも、PCカードを挿入したり抜いたりできることです。
●本商品をパソコンに挿入したまま、移動しないでください。移動する際は、パソコンから取り外してください。
●パソコンのバッテリが不足した状態では、本商品の動作が不安定になります。パソコンのバッテリ残量を確認の上、お使いください。
●パソコンに挿入したまま、アンテナや露出部分を強く握ったり、取っ手などにしないでください。けがや故障、破損などの原因になります。

27

操作手順説明

順番に操作を説明します。

お願いまたはお知らせ

〈お願い〉

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

〈お知らせ〉

この表示は、本商品を扱ううえでの注意事項を示します。

目　次

目　次

3 環境設定ソフトを使う

4 ATコマンド

5 ご参考に

特　長

本商品は、PDAやハンドヘルドPCなどのモバイル端末で広く採用されているCF（コンパクトフラッシュ）カードにPIAFS Ver2.0対応のデータ通信機能を搭載したPHSデータ通信専用のカードです。

CFカードとPHSのデータ通信機能を一体化

CFカードにPHSの64K／32Kデータ通信機能を搭載しているので、CFカードスロット（TYPEⅡ）をもつパソコンなどに直接セットするだけで、PHSの64K／32K高速データ通信が行えます。
PIAFS方式の64K／32Kデータ通信サービスに対応しており、64 kbps／32 kbpsの通信チャネルを使った最大実効伝送速度58.4 kbps／29.2 kbpsの全二重通信が可能です。

コンパクトで携帯しやすいCFカード

約5 cm×4 cmで厚さ最大約6 mmの小さくて薄いCFカードなので、付属の専用ケースに入れてもかさばりません。

PCカードアダプタでPCカードスロットでの使用も可能

付属品のPCカードアダプタを使えば、CFカードスロットのないパソコンでも、PCカードスロット（TYPEⅡ）にセットして使用することができます。

ISDNコードレスホンなどに接続可能

ISDNコードレスホンなどに無線接続してデータ通信を行う、オフィスステーションモード（OSモード）に対応しています。そのほか、PHS公衆モード、オフィスアンテナモード（OAモード）に対応しています。

ATコマンド準拠

ATコマンドは、米国Hayes社が自社用モデムのために開発し、使用した非同期端末用の自動発着信方式の一種であり、コマンドの大部分が"AT"で始まるところからこう呼ばれています。
本商品は、このATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

エラー訂正機能

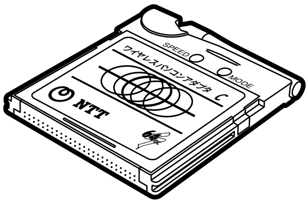
PIAFS（PHS Internet Access Forum Standard）に従うエラー訂正プロトコルにより、高速でエラーが少ない高品質のデータ通信が行えます。

お知らせ

●ISDNコードレスホンなどに接続して使用するときは、設定が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。
●PHS公衆モードで使用するときは、NTTドコモとのご契約が必要です。詳しくは、NTTドコモ窓口などにお問い合わせください。

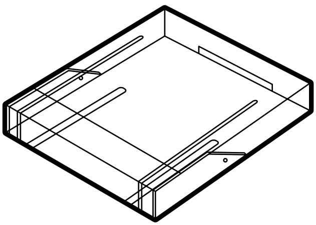
セットを確認してください

■本体

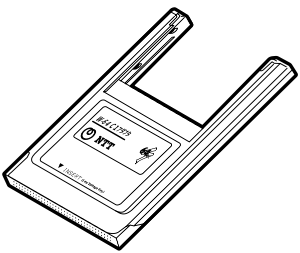


ワイヤレスパソコンアダプタC（1個）

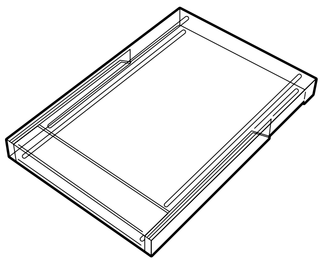
■付属品



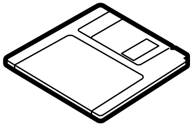
専用ケース（1個）



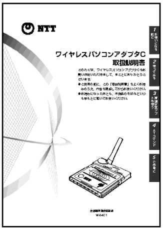
ワイヤレスパソコンアダプタC用
ＰＣカードアダプタ（1個）



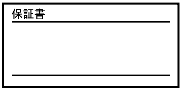
ＰＣカードケース（1個）



フロッピーディスク（1枚）



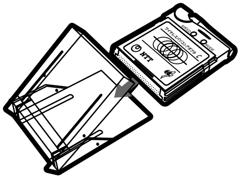
取扱説明書（1部）



保証書（1枚）

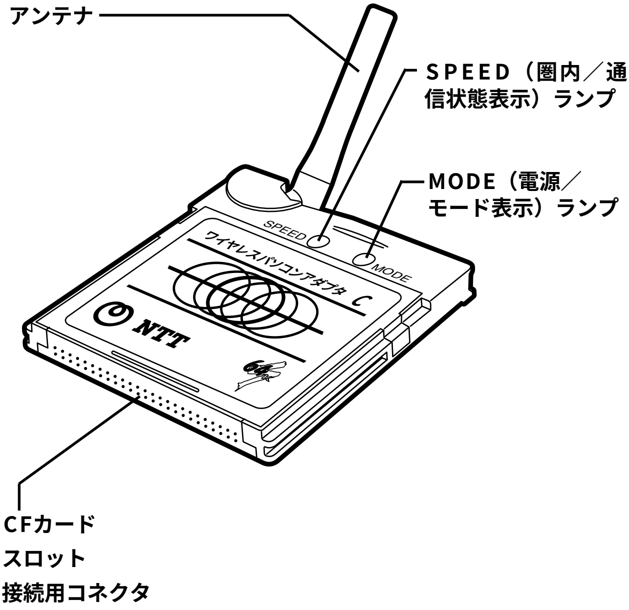
お願い

●ご使用にならないときは、保護のため、付属の専用ケースに入れてください。
●専用ケースに入れるときは、図のように接続用コネクタ側から入れてください。（アンテナ側からではきちんと入りません）



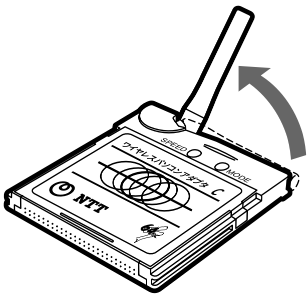
●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へご連絡ください。

各部の名前

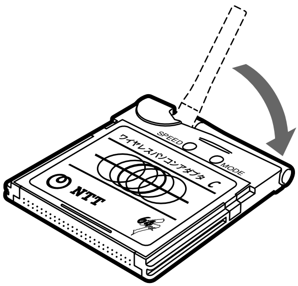

アンテナ
SPEED（圏内／通信状態表示）ランプ
MODE（電源／モード表示）ランプ
SPEED
MODE
ワイヤレスパソコンアダプタ C
NTT
CFカード
スロット
接続用コネクタ

アンテナについて

■通信するときは



■持ち運ぶときは



お願い

●アンテナに無理な力を加えないでください。故障の原因となります。

ランプ表示について

本商品は、電源のON/OFF、電波の状態（「圏内」かどうか）、現在の通信状況などの情報を2つのランプで表します。

自営系モード：オフィスステーション（OS）モード（ISDNコードレスホンなどに接続して利用する場合）

状態		SPEEDランプ		MODEランプ		
		赤	緑	赤	緑	橙
発信	32Kデータ通信発信中	点滅1				点滅2
	64Kデータ通信発信中		点滅1			点滅2
通信	32Kデータ通信中	点灯				点灯
	64Kデータ通信中		点灯			点灯
	32Kデータ通信中圏外	点滅2				点灯
	64Kデータ通信中圏外		点滅2			点灯
着信	32Kデータ着信中	点滅3				点滅2
	64Kデータ着信中		点滅3			点滅2
待ち受け中	待ち受け中圏外	消灯				点滅2
	待ち受け中圏外（デュアル）※1	消灯		点滅2		
	待ち受け中圏内		点滅2			点滅2
	待ち受け中圏内（デュアル）※2		点滅2	点滅2		
電源電圧異常		点灯		点灯		
電源OFF		消灯（カード挿入時、緑約1秒間点灯）		消灯（カード挿入時、緑約1秒間点灯）		

※1　自営、公衆ともに圏外の場合　　※2　自営、公衆ともに圏内の場合

公衆系モード：PHS公衆モード、オフィスアンテナ（OA）モード

状態		SPEEDランプ		MODEランプ		
		赤	緑	赤	緑	橙
発信	32Kデータ通信発信中	点滅1			点滅2	
	64Kデータ通信発信中		点滅1		点滅2	
通信	32Kデータ通信中	点灯			点灯	
	64Kデータ通信中		点灯		点灯	
	32Kデータ通信中圏外	点滅2			点灯	
	64Kデータ通信中圏外		点滅2		点灯	
着信	32Kデータ着信中	点滅3			点滅2	
	64Kデータ着信中		点滅3		点滅2	
位置情報	位置情報通知中	点灯			点灯	
	位置情報申告中	点灯			点灯	
待ち受け中	待ち受け中圏外	消灯			点滅2	
	待ち受け中圏外（デュアル）※1	消灯		点滅2		
	待ち受け中圏内		点滅2		点滅2	
	待ち受け中圏内（デュアル）※2		点滅2	点滅2		
電源電圧異常		点灯		点灯		
電源OFF		消灯（カード挿入時、緑約1秒間点灯）		消灯（カード挿入時、緑約1秒間点灯）		

※1　自営、公衆ともに圏外の場合　　※2　自営、公衆ともに圏内の場合

■点滅のパターン

パターン名	点滅のしかた
点滅1	約0.3秒間隔で点灯／消灯を繰り返す
点滅2	約1秒点灯、2秒消灯を繰り返す
点滅3	約0.1秒間隔で点灯／消灯を繰り返す

お知らせ

●データ通信や位置情報通知・申告の前には、必ず発信の表示があります。
●ランプによる圏内／圏外の表示は、本商品に電源が供給されている状態で、ランプの点灯がOFFに設定されていないときにのみ行われます。（☛P87）ご使用のパソコンやPDA、ハンドヘルドPCの機種によっては、カードスロットに挿入しただけでは表示されない場合があります。
●パソコンなどの設定によっては、圏内で電源ONの状態でも、ランプが2つとも消灯したままになる場合があります。この場合は、環境設定ソフトで通信ポートを正しく設定し直してみてください。（☛P89）
●パソコンのバッテリが不足した状態では、本商品の動作が不安定になります。パソコンのバッテリの残量を確認の上、お使いください。

お願い

●電源電圧異常を知らせるSPEED、MODEの2つのランプが点灯した場合には速やかにパソコンの電源をOFFにし、本商品をスロットから抜き取ってください。そのままにしておくと故障の原因になることがあります。
●電源異常が発生した場合には、パソコンのバッテリがなくなっている場合がありますのでご確認ください。バッテリに問題がない場合はパソコンがカードスロットに対して、DC3.3 Vで電源供給できる仕様かどうかをご確認ください。本商品はDC3.3 V専用です。

接続できる機種について

パソコンなどについて

次のいずれかの場合に、各条件を満たすパソコンやPDA、ハンドヘルドPCに接続できます。

■CFカードスロットに直接挿入する場合

- CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4以上に準拠したCFカードスロット（TYPE II）をもつこと。
- Windows® 95/98/Me/2000対応のPC-AT互換（DOS/V）機パソコン、またはWindows® CE対応のPDA、ハンドヘルドPCであること。
- カードスロットに挿入した状態で、本商品の表示ランプ部やアンテナがパソコンなどの外部に露出していること。

■PCカードアダプタを介してPCカードスロットに挿入する場合

- PC Card Standard 95以上に準拠したPCカードスロット（TYPE II）をもつこと。
- 付属品のPCカードアダプタを使用すること。
- Windows® 95/98/Me/2000対応のPC-AT互換（DOS/V）機パソコン、またはWindows® CE対応のPDA、ハンドヘルドPCであること。
- カードスロットに挿入した状態で、本商品の表示ランプ部やアンテナがパソコンなどの外部に露出していること。

※使用できる機種の詳細は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店までお問い合わせください。

※本商品はDC3.3 V電圧で動作します。DC5 V電圧で動作するパソコンなどではご利用になれません。

※パソコンによっては、上記の各条件を満たしていても使用できない場合があります。

※パソコンの機種によっては、接続して使用中にパソコンのスピーカからわずかにノイズが発生する可能性がありますが、故障ではありません。

お知らせ

●本商品のカード部分は約5.0 mmの厚みがあります。CFメモリカード専用のスロット（TYPE I：厚み約3.3 mm）には挿入できません。
●本商品の突出部分は約6 mmの厚みがあり、カードの表面から上下に約0.6 mmずつ突出しています。パソコンのCFカードスロットの位置や形状によっては、完全に挿入できない場合があります。
●本商品で安定した通信を行うには、アンテナを立てることをお勧めします。ご使用のパソコンのスロットに挿入した状態でアンテナが立てられるかどうかをご確認ください。

お願い

●本商品をパソコンなどに接続する前に、必ずパソコンがDC3.3 Vの電源を供給できることを確認してください。
詳しくは、パソコンのメーカにお問い合わせください。

パソコンなどに接続します

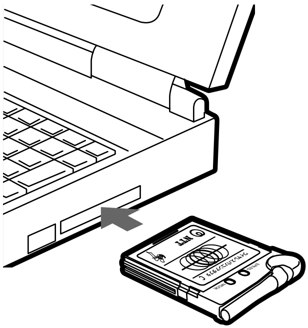
本商品は、パソコンやPDA、ハンドヘルドPCのCFカードスロットまたはPCカードスロットに接続して使用することができます。
これ以降、本書ではパソコンやPDA、ハンドヘルドPCなどをまとめて「パソコン」と呼びます。

CFカードスロットに接続する

1 パソコンの電源を切ります。

2 本商品をパソコンのCFカードスロットに、奥までしっかり挿入します。

ラベル面を上にして挿入してください。パソコンによっては扱いかたが異なる場合もあります。



ワンポイント

● **パソコンから取り外すには**

パソコンから取り外す前に、パソコンの電源を切るか、タスクバーのトレイにあるカードのアイコンをダブルクリックして、［停止］または［終了］をクリックする操作が必要です。取り外しかたについては、パソコンの取扱説明書を参照してください。取り外したあとは、専用ケースに収めてください。

お知らせ

●カードの抜き差しは、両端を持ってまっすぐに行ってください。アンテナ部に無理な力を加えると故障・破損などの原因となることがあります。

●パソコン側のCFカードスロット位置や挿入方向がパソコンによって異なる場合があります。パソコンの取扱説明書を参照してください。

お願い

●本商品と他の機器を接続するときは、機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま接続すると、故障の原因となり、発煙・発火の可能性があります。

（PCMCIA2.0/JEIDA V4.1以降では、パソコンの電源を入れたままPCカードを抜き差しする「hot swapping」（※）が可能となっており、本商品はこれに対応しています。

しかし、旧型パソコンの場合、「hot swapping」に対応していないこともありますので、電源を切った状態（OFF）で本商品を挿入してください）

※「hot swapping」とは、システム電源を切ったり、システムを再起動しないでも、PCカードを挿入したり抜いたりできることです。

●本商品をパソコンに挿入したまま、移動しないでください。移動する際は、パソコンから取り外してください。

●パソコンのバッテリが不足した状態では、本商品の動作が不安定になります。パソコンのバッテリ残量を確認の上、お使いください。

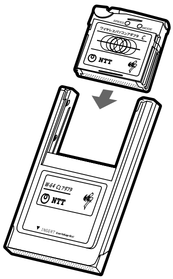
●パソコンに挿入したまま、アンテナや露出部分を強く握ったり、取っ手などにしないでください。けがや故障、破損などの原因になります。

パソコンなどに接続します

PCカードスロットに接続する

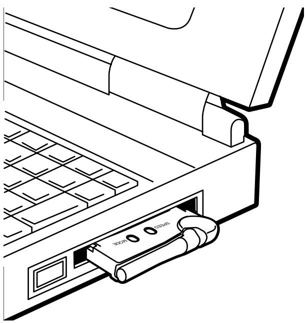
1 本商品を付属品のPCカードアダプタに装着します。

本商品とPCカードアダプタのラベル面を上にして、CFカード用スロット接続用コネクタのある側を、PCカードアダプタのガイド溝に合わせます。
PCカードアダプタにまっすぐ挿入してください。



2 パソコンの電源を切ります。

3 本商品を装着したPCカードアダプタを、パソコンのPCカードスロットに奥までしっかり挿入します。



ワンポイント

● **パソコンから取り外すには**

パソコンから取り外す前に、パソコンの電源を切るか、タスクバーのトレイにあるカードのアイコンをダブルクリックして、［停止］または［終了］をクリックする操作が必要です。取り外しかたについては、パソコンの取扱説明書を参照してください。

● **PCアダプタから本商品を取り外すには**

パソコンの取扱説明書にしたがってPCカードアダプタをパソコンから取り外します。その後、PCカードアダプタから本商品をまっすぐ抜き取ります。取り外したあとは、それぞれの専用ケースに収めてください。

お知らせ

●PCアダプタの抜き差しは、両端を持ってまっすぐに行ってください。アンテナ部に無理な力を加えると故障・破損などの原因となることがあります。
●パソコン側のPCカードスロット位置や挿入方向がパソコンによって異なる場合があります。パソコンの取扱説明書を参照してください。

お願い

●本商品と他の機器を接続するときは、機器の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま接続すると、故障の原因となり、発煙・発火の可能性があります。
（PCMCIA2.0/JEIDA V4.1以降では、パソコンの電源を入れたままPCカードを抜き差しする「hot swapping」（※）が可能となっており、本商品はこれに対応しています。
しかし、旧型パソコンの場合、「hot swapping」に対応していないこともありますので、電源を切った状態（OFF）で本商品を挿入してください）
※「hot swapping」とは、システム電源を切ったり、システムを再起動しないでも、PCカードを挿入したり抜いたりできることです。
●本商品をパソコンに挿入したまま、移動しないでください。移動する際は、パソコンから取り外してください。
●パソコンのバッテリが不足した状態では、本商品の動作が不安定になります。パソコンのバッテリ残量を確認の上、お使いください。
●パソコンに挿入したまま、アンテナや露出部分を強く握ったり、取っ手などにしないでください。けがや故障、破損などの原因になります。

Windows® 95で使うには

Windows® 95をご利用の場合は、ご使用のパソコンで次の準備を行ってください。

カードドライバを確認する

PCMCIAドライバがインストールされていることを確認します。
コントロールパネルにPCMCIAのアイコンが表示されていれば、CFカードスロットに直接接続する場合と、PCカードアダプタに装着してPCカードスロットに挿入する場合のどちらでも使用可能です。
PCMCIAのアイコンがない場合、PCMCIAドライバのインストールを行ってください。PCMCIAドライバのインストール方法は、パソコンメーカへお問い合わせください。

Windows® 95のバージョンを確認する

ワイヤレスパソコンアダプタCは、「旧バージョン」のWindows® 95では使用できません。
Windows® 95のバージョンを確認してください。

■バージョンの確認方法

パソコンのデスクトップ画面より［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の順に選んで［コントロールパネル］のフォルダを開き、「システム」をダブルクリックして「システムのプロパティ」画面を開きます。
「システム：」のあとに続く最後の文字がWindows® 95のバージョンです。

【例】4.00.950 C

- C ：新バージョン
- B ：新バージョン
- a ：旧バージョン
- 表示なし：旧バージョン

モデム情報ファイルをインストールする

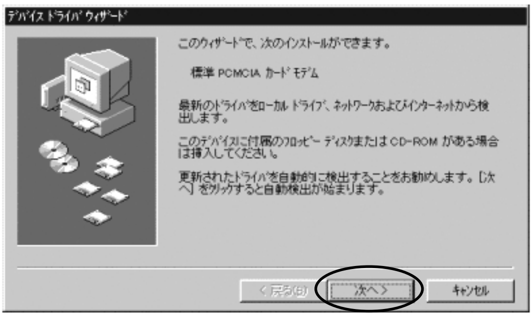
付属のフロッピーディスクからモデム情報ファイルをインストールします。モデム情報ファイルは、アプリケーションソフトから本商品を使えるようにするための設定ファイルです。

1 パソコンの電源がOFFの状態で、本商品をパソコンのカードスロットに挿入します。(☛P26〜29)

2 パソコンの電源をONにして、Windows® 95を起動します。

「新しいハードウェアが検出されました」と表示されたあと、本商品が認識され［デバイスドライバウィザード］画面が表示されます。

3 付属のモデム情報ファイルのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［次へ>］をクリックします。



(次ページへ続く)

Windows® 95で使うには

4 「W-PADP W-64C1」と表示されているのを確認し、[完了]をクリックします。

フロッピーディスクからモデム情報ファイルがインストールされます。



5 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]→[コントロールパネル]の順にクリックします。

6 [モデム]のアイコンをダブルクリックします。

[モデムのプロパティ]画面が表示されます。
一覧の中に「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認してください。

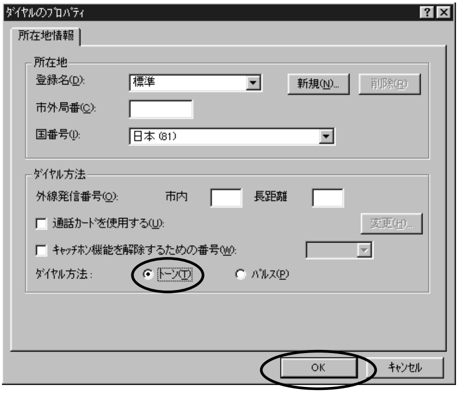
7 [ダイヤルのプロパティ] をクリックします。



(次ページへ続く)

8「ダイヤル方法」の「トーン」をクリックし、[OK]をクリックします。

その他の設定は、ご使用の環境に合わせて決めてください。



Windows® 側の仕様により、「トーン」または「パルス」を選択すると、その選択内容が既存のダイヤルアップネットワークの接続アイコンすべてに反映されますので、ご注意ください。

以上でインストールは終わりです。

次回からは本商品を挿入するだけで使えるようになります。

インターネットの接続の設定をする

インターネットにアクセスするときは、ダイヤルアップネットワークを使います。多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P42）

通信ソフトを設定する（ハイパーターミナルの設定例）

多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P46）

フォールバック機能をOFFに設定する

多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P49）

お知らせ

- パソコンによっては、操作手順が異なる場合や、再起動が必要となる場合があります。

Windows® 98で使うには

Windows® 98およびWindows® 98 Second Editionをご利用の場合は、ご使用のパソコンで次の準備を行ってください。

カードドライバを確認する

PCMCIAドライバがインストールされていることを確認します。
コントロールパネルにPCMCIAのアイコンが表示されていれば、CFカードスロットに直接接続する場合と、PCカードアダプタに装着してPCカードスロットに挿入する場合のどちらでも使用可能です。
PCMCIAのアイコンがない場合、PCMCIAドライバのインストールを行ってください。PCMCIAドライバのインストール方法は、パソコンメーカへお問い合わせください。

モデム情報ファイルをインストールする

付属品のフロッピーディスクからモデム情報ファイルをインストールします。モデム情報ファイルは、アプリケーションソフトから本商品を使えるようにするための設定ファイルです。

1 **パソコンの電源がOFFの状態で、本商品をパソコンのカードスロットに挿入します。****（☛P26〜29）**

2 **パソコンの電源をONにして、Windows® 98を起動します。**

「新しいハードウェアが検出されました」と表示されたあと、本商品が認識され、[新しいハードウェアの追加ウィザード］画面が表示されます。

3 **付属のモデム情報ファイルのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[次へ>］をクリックします。**



4「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」に◉マークがついていることを確認し、[次へ>] をクリックします。



5「フロッピーディスクドライブ」にチェックマークをつけ、[次へ>] をクリックします。

フロッピーディスクよりモデム情報ファイルが検出されます。



（次ページへ続く）

Windows® 98で使うには

6 画面上段に「W-PADP W-64C1」が、下段に「A:\MDMCNP.INF」が、それぞれ表示されていることを確認し、[次へ>] をクリックします。



インストールが始まります。

7 「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認し、[完了] をクリックします。



8［スタート］ボタンをクリックし、［設定］→［コントロールパネル］をクリックします。

9［モデム］アイコンをダブルクリックします。



［モデムのプロパティ］画面が表示されます。

（次ページへ続く）

Windows® 98で使うには

10「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認し、［ダイヤルのプロパティ］をクリックします。



11 「ダイヤル方法」の「トーン」をクリックし、[OK] をクリックします。

その他の設定はご使用の環境に合わせて決めてください。
Windows®側の仕様により、「トーン」または「パルス」を選択すると、その選択内容が既存のダイヤルアップネットワークの接続アイコンすべてに反映されますので、ご注意ください。



以上でインストールは終わりです。

次回からは本商品を挿入するだけで使えるようになります。

お知らせ

● パソコンによっては、操作手順が異なる場合や、再起動が必要となる場合があります。

インターネット接続の設定をする

インターネットにアクセスするときは、ダイヤルアップネットワークを使います。

お知らせ

●インターネットのサービスを受けるためにはプロバイダとの契約が必要です。詳細は接続するプロバイダに確認してください。また、TCP/IPなどの設定が必要になります。詳細はパソコンの取扱説明書で確認してください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］→［ダイヤルアップネットワーク］の順にクリックします。**

2 **［新しい接続］アイコンをダブルクリックします。**

3 **「接続名」に接続先の名前（プロバイダの名前など）を入力したあと、「モデムの選択」から「W-PADP W-64C1」を選び、［次へ>］をクリックします。**

ここでは例として接続先の名前を“ ＊＊＊＊ ”としています。



4 「市外局番」を空白にして、「電話番号」に接続先の電話番号※を市外局番から入力し、「国番号」を選んだあと、［次へ>］をクリックします。

ここでは例として接続先の電話番号を“ 031234＊＊＊＊ ”としています。
※接続先の電話番号は以下のように、利用する場合に応じて電話番号の後に「＃××××」を入力します。

■ISDNコードレスホンなどに接続して利用する場合（注1）

●主電話機で設定したプロトコル（同期PPPなど）で接続先に接続する場合（通常はこちらを選択）
- 32Kを利用する場合…「＃0101」
- 64Kを利用する場合…「＃0111」

【入力例】031234＊＊＊＊＃0101

●主電話機で設定したプロトコルによらず、PIAFSで接続する場合
- 32Kを利用する場合…「＃0100」（注2）
- 64Kを利用する場合…「＃0110」

【入力例】031234＊＊＊＊＃0110

注1：＃以降の入力を省略した場合は、環境設定ソフトで設定した速度と、主電話機で設定したプロトコルで接続先に接続します。（☛P86）
注2：以下の機種では「＃0100」と入力した場合、32Kで主電話機で設定したプロトコルで接続先に接続されます。（平成12年12月現在）
W-1000P、W-1100P、W-1000K、W-1100K、W-3000N、W-3000S、FT-50

（次ページへ続く）

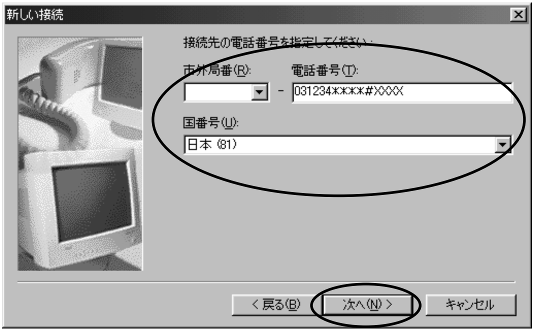
Windows® 98で使うには

■PHS公衆モードなどで利用する場合（注1）

●64Kデータ通信対応の接続先に接続する場合…「＃64」
【入力例】031234＊＊＊＊＃64

●32Kデータ通信対応の接続先に接続する場合…「＃32」
【入力例】031234＊＊＊＊＃32

注1：＃以降の入力を省略した場合は、環境設定ソフトで設定した速度で接続先に接続します。（☛P86）



5 **確認の画面で［完了］をクリックします。**

6 **「ダイヤルアップネットワーク」のフォルダに、作成した接続のアイコン（＊＊＊＊）があることを確認します。**

ここでは例として接続先の名前を“ ＊＊＊＊ ”としています。



7 **手順6でできたアイコンをクリックし、「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックします。**

8 **「＊＊＊＊」の画面で「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」をクリックしてチェックマークを消し、[OK]をクリックします。**



9 **実際に接続するときは、「ダイヤルアップネットワーク」内のアイコン（＊＊＊＊）をダブルクリックし、「ユーザー名」など必要な情報を入力したあと、[接続]をクリックします。**



通信ソフトを設定する（ハイパーターミナルの設定例）

**Windows® ９８付属のハイパーターミナルでの設定方法について説明します。
その他の通信ソフトをお使いの方は、これを参考にして設定してください。**

お知らせ

●ハイパーターミナルは、パソコン通信を行うためのWindows® ９８付属の通信ソフトですが、Windows® ９８のインストール時にカスタマイズされてインストールされていない場合があります。
この場合は、パソコンに付属のWindows® ９８よりハイパーターミナルをインストールしてください。ハイパーターミナルのインストール方法は、パソコンメーカまたはマイクロソフト社へお問い合わせください。

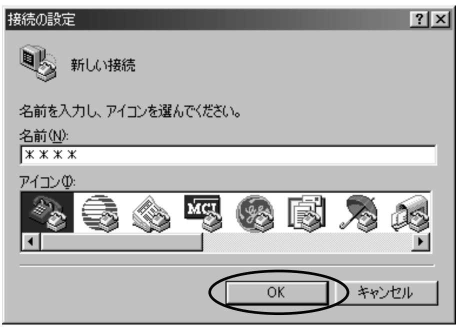
1 ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］→［ハイパーターミナル］の順にクリックします。

2 「Hypertrm」アイコンをダブルクリックします。

新しい［接続の設定］画面が表示されます。

3 接続先の名前を入力し、アイコンを選び、［OK］をクリックします。

ここでは、例として接続先の名前を“ ＊＊＊＊ ”としています。

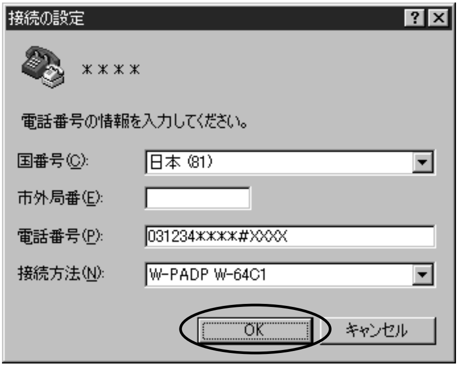


4 電話番号の画面で次のように設定し、[OK] をクリックします。

「国番号」　：接続先の国番号を設定
「市外局番」：空白
「電話番号」：接続先の電話番号を市外局番から入力

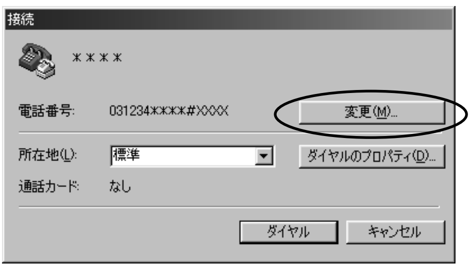
接続先の電話番号の入力方法は、P43の手順4を参照してください。

「接続方法」：「W-PADP W-64C1」を選択



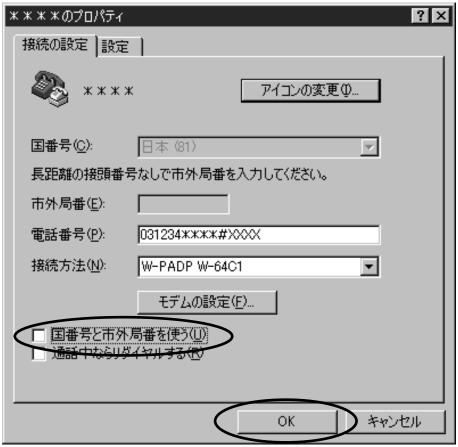
[接続] 画面が表示されます。

5 [変更] をクリックします。



(次ページへ続く)

6 **「国番号と市外局番を使う」をクリックしてチェックマークを消し、［OK］をクリックします。**



7 **［接続］画面で［ダイヤル］をクリックして接続を行います。**

次回からは、手順3で作ったアイコンをダブルクリックすることで接続することができます。

フォールバック機能をOFFに設定する

本商品では、フォールバック機能の初期設定はONに設定されています。この場合、64Kデータ通信ができないときは、自動的に32 kbpsに通信速度を落として再ダイヤルします。
ここでは、フォールバック機能をOFFに設定する方法を説明します。
フォールバック機能については、P130を参照してください。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

2 ［モデム］アイコンをダブルクリックします。

［モデムのプロパティ］画面が表示されます。

3 一覧の中から「W-PADP W-64C1」を選び、［プロパティ］をクリックします。

［W-PADP W-64C1のプロパティ］画面が表示されます。

4 ［接続］タブをクリックします。



（次ページへ続く）

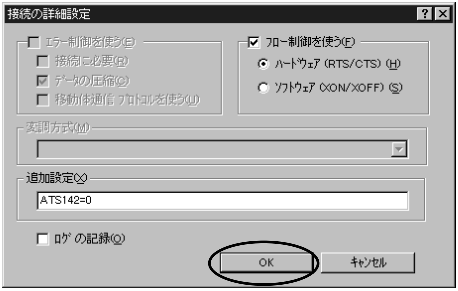
5［詳細］をクリックします。



［接続の詳細設定］画面が表示されます。

6「追加設定」に「ATS142=0」と入力し、［OK］をクリックします。

7 すべての画面で［OK］をクリックして設定を保存します。



Windows®側の仕様により、「追加設定」にATコマンドを入力すると、既存のダイヤルアップネットワークの接続アイコンのうち、モデムとして本商品を選択したものすべてに反映されますのでご注意ください。

以上で設定は終わりです。

Windows® Meで使うには

Windows® Meをご利用の場合は、ご使用のパソコンで次の準備を行ってください。

カードドライバを確認する

PCMCIAドライバがインストールされていることを確認します。
コントロールパネルにPCMCIAのアイコンが表示されていれば、CFカードスロットに直接接続する場合と、PCカードアダプタに装着してPCカードスロットに挿入する場合のどちらでも使用可能です。
PCMCIAのアイコンがない場合、PCMCIAドライバのインストールを行ってください。PCMCIAドライバのインストール方法は、パソコンメーカへお問い合わせください。

モデム情報ファイルをインストールする

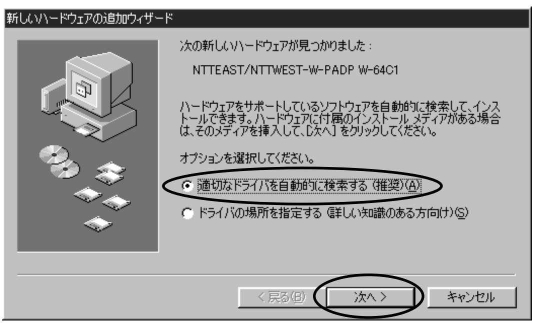
付属品のフロッピーディスクからモデム情報ファイルをインストールします。モデム情報ファイルは、アプリケーションソフトから本商品を使えるようにするための設定ファイルです。

1 パソコンの電源がOFFの状態で、本商品をパソコンのカードスロットに挿入します。（☛P26～29）

2 パソコンの電源をONにして、Windows® Meを起動します。

「新しいハードウェアが検出されました」と表示されたあと、本商品が認識され、[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示されます。

3 「適切なドライバを自動的に検索する（推奨）」にマークがついていることを確認して、付属のモデム情報ファイルのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[次へ>] をクリックします。



インストールが始まります。

4 「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認し、[完了] をクリックします。



5 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [コントロールパネル] をクリックします。

6 [モデム] アイコンをダブルクリックします。

[モデム] アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックします。



[モデムのプロパティ] 画面が表示されます。

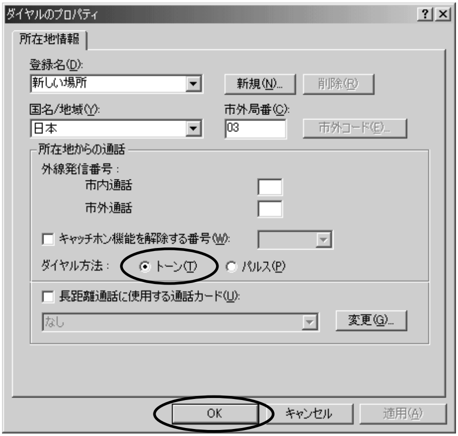
(次ページへ続く)

7 **「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認し、［ダイヤルのプロパティ］をクリックします。**



8 「ダイヤル方法」の「トーン」をクリックし、[OK] をクリックします。

その他の設定はご使用の環境に合わせて決めてください。
Windows® 側の仕様により、「トーン」または「パルス」を選択すると、その選択内容が既存のダイヤルアップネットワークの接続アイコンすべてに反映されますので、ご注意ください。



以上でインストールは終わりです。

次回からは本商品を挿入するだけで使えるようになります。

お知らせ

● パソコンによっては、操作手順が異なる場合や、再起動が必要となる場合があります。

Windows® Meで使うには

インターネット接続の設定をする

インターネットにアクセスするときは、ダイヤルアップネットワークを使います。
多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P42）

通信ソフトを設定する（ハイパーターミナルの設定例）

多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P46）

フォールバック機能をOFFに設定する

多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P49）

Windows® 2000で使うには

Windows® 2000 Professionalをご利用の場合は、ご使用のパソコンで次の準備を行ってください。
以降、Windows® 2000 ProfessionalはWindows® 2000と記載します。

カードドライバを確認する

PCMCIAドライバがインストールされていることを確認します。
コントロールパネルにPCMCIAのアイコンが表示されていれば、CFカードスロットに直接接続する場合と、PCカードアダプタに装着してPCカードスロットに挿入する場合のどちらでも使用可能です。
PCMCIAのアイコンがない場合、PCMCIAドライバのインストールを行ってください。PCMCIAドライバのインストール方法は、パソコンメーカへお問い合わせください。

モデム情報ファイルをインストールする

付属品のフロッピーディスクからモデム情報ファイルをインストールします。モデム情報ファイルは、アプリケーションソフトから本商品を使えるようにするための設定ファイルです。

1. **パソコンの電源をOFFにした状態で、本商品をパソコンのカードスロットに挿入します。（☛P26～29）**

2. **パソコンの電源をONにして、Windows® 2000を起動します。**

   「新しいハードウェアが見つかりました」の画面が表示され、「標準PCMCIAカードモデム」としてインストールされます。
   「標準PCMCIAカードモデム」の後ろに「＃2」のような数字がついている場合は、それに合わせて以下の説明を読み替えてください。

3. **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。**

4. **［システムアイコン］をダブルクリックします。**

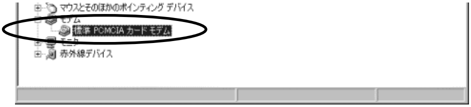
5. **［ハードウェア］タブをクリックします。**

6. **［デバイスマネージャ］欄の［デバイスマネージャ］をクリックします。**

（次ページへ続く）

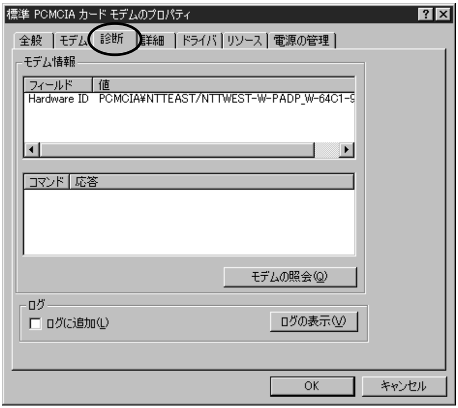
Windows® 2000で使うには

7 一覧の中の「モデム」をダブルクリックし、「標準PCMCIAカードモデム」をダブルクリックします。



［標準PCMCIAカードモデムのプロパティ］画面が表示されます。

8 ［診断］タブをクリックし、「モデム情報」に「Hardware ID PCMCIA\NTTEAST/NTTWEST-W-PADP_W-64C1-91AB」と表示されていることを確認します。

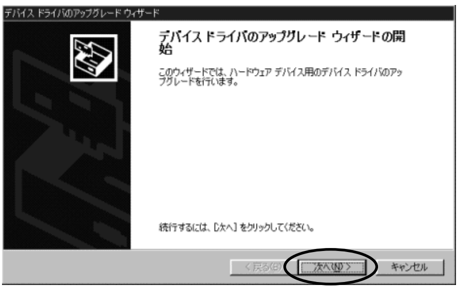


9 **［ドライバ］タブをクリックし、［ドライバの更新］をクリックします。**



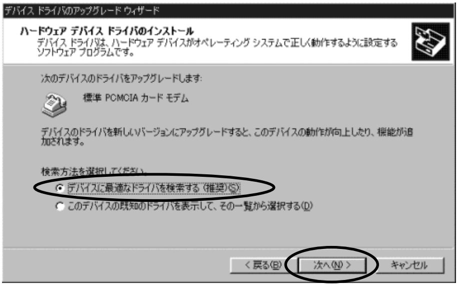
デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始画面が表示されます。

10 **付属のモデム情報ファイルのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［次へ>］をクリックします。**

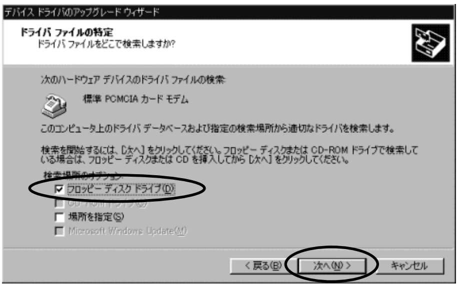


（次ページへ続く）

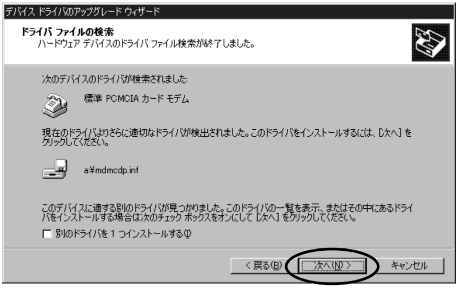
11 アップグレードするデバイスドライバとして「標準PCMCIAカードモデム」が表示されていることを確認し、「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」に　マークがついていることを確認して、［次へ>］をクリックします。



12「フロッピーディスクドライブ」にチェックマークがついていることを確認し、［次へ>］をクリックします。

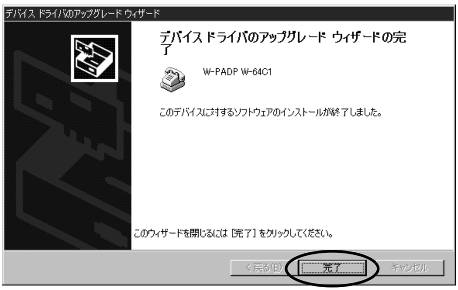


13 フロッピーディスクよりモデム情報ファイルが検出されます。画面中段に「a:\mdmcp.inf」が表示されていることを確認し、［次へ>］をクリックします。



インストールが始まります。

14 「このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。」のメッセージの上段に「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認し、［完了］をクリックします。



（次ページへ続く）

Windows® 2000で使うには

15［スタート］ボタンをクリックし、［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

16［電話とモデムのオプション］アイコンをダブルクリックします。

［電話とモデムのオプション］画面が表示されます。

17「モデム」タブをクリックし、一覧の中に「W-PADP W-64C1」が表示されていることを確認して［OK］をクリックします。



お知らせ

●パソコンによっては、操作手順が異なる場合や、再起動が必要となる場合があります。

インターネット接続の設定をする

インターネットにアクセスするときは、ダイヤルアップネットワークを使います。

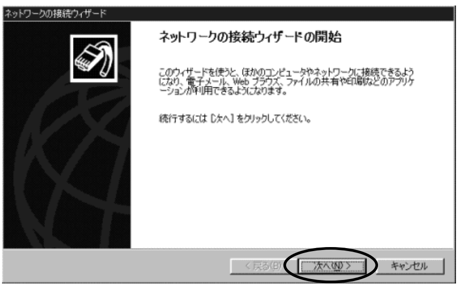
お知らせ

- インターネットのサービスを受けるためにはプロバイダとの契約が必要です。詳細は接続するプロバイダに確認してください。また、TCP/IPなどの設定が必要になります。詳細はパソコンの取扱説明書で確認してください。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］の順にクリックします。**

2 **［新しい接続の作成］アイコンをダブルクリックします。**

3 **［ネットワークの接続ウィザード］画面で、［次へ>］をクリックします。**

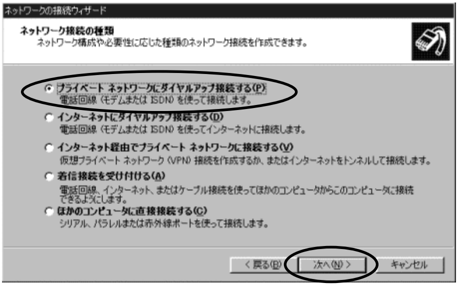


（次ページへ続く）

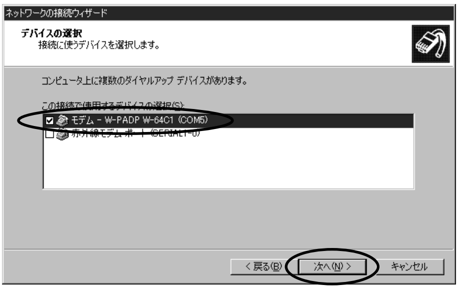
Windows® 2000で使うには

4 ネットワーク構成や必要性に応じたネットワーク接続方法を選択し、[次へ>]をクリックします。

ここでは、例として「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」をクリックして選択します。



5 「モデム-W-PADP W-64C1（COM×）」をクリックして選択し、[次へ>]をクリックします。



6 接続先の電話番号※を入力し、［次へ>］をクリックします。

ここでは例として接続先の電話番号を“０３１２３４＊＊＊＊”としています。
※接続先の電話番号は以下のように、利用する場合に応じて電話番号の後に「＃××××」を入力します。

■ＩＳＤＮコードレスホンなどに接続して利用する場合（注1）

●主電話機で設定したプロトコル（同期ＰＰＰなど）で接続先に接続する場合（通常はこちらを選択）
- ・３２Ｋを利用する場合…「＃０１０１」
- ・６４Ｋを利用する場合…「＃０１１１」

【入力例】０３１２３４＊＊＊＊＃０１０１

●主電話機で設定したプロトコルによらず、ＰＩＡＦＳで接続する場合
- ・３２Ｋを利用する場合…「＃０１００」（注2）
- ・６４Ｋを利用する場合…「＃０１１０」

【入力例】０３１２３４＊＊＊＊＃０１１０

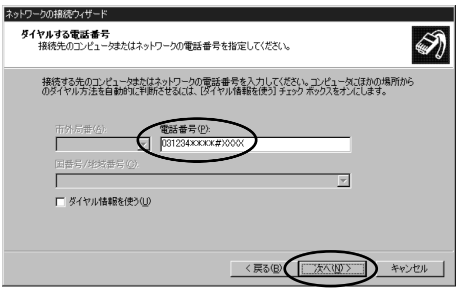
■ＰＨＳ公衆モードなどで利用する場合（注1）

●６４Ｋデータ通信対応の接続先に接続する場合…「＃６４」
【入力例】０３１２３４＊＊＊＊＃６４

●３２Ｋデータ通信対応の接続先に接続する場合…「＃３２」
【入力例】０３１２３４＊＊＊＊＃３２

注1：＃以降の入力を省略した場合は、環境設定ソフトで設定した速度と、主電話機で設定したプロトコルで接続先に接続します。（☛Ｐ８６）

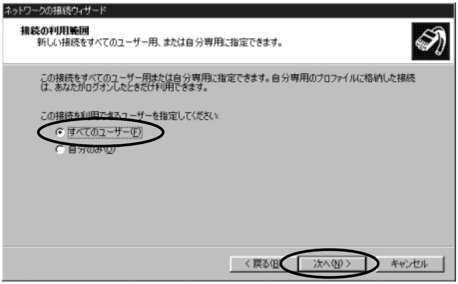
注2：以下の機種では「＃０１００」と入力した場合、３２Ｋで主電話機で設定したプロトコルで接続先に接続されます。（平成12年12月現在）
Ｗ-１０００Ｐ、Ｗ-１１００Ｐ、Ｗ-１０００Ｋ、Ｗ-１１００Ｋ、Ｗ-３０００Ｎ、Ｗ-３０００Ｓ、ＦＴ-５０



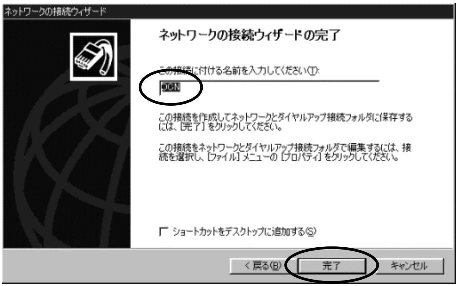
（次ページへ続く）

7 **接続の利用範囲を選択し、［次へ>］をクリックします。**

ここでは例として「すべてのユーザー」をクリックして選択します。



8 **この接続に付ける名前（プロバイダ名など）を入力し、［完了］をクリックします。**



9 **接続画面が表示されるので、［キャンセル］をクリックします。**

以後の接続設定はプロバイダごとに異なります。ご契約のプロバイダからの指示に従って設定してください。

10 **実際に接続するときは、「ネットワークとダイヤルアップ接続」フォルダ内に作成されたアイコンをダブルクリックし、「ユーザー名」など必要な情報を入力したあと、［ダイヤル］をクリックします。**

通信ソフトを設定する（ハイパーターミナルの設定例）

多少画面は異なりますが、Windows® 98と同様の手順です。（☛P46）

フォールバック機能をOFFに設定する

フォールバック機能については、P130を参照してください。

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックします。

2 ［電話とモデムのオプション］アイコンをダブルクリックします。

［電話とモデムのオプション］画面が表示されます。

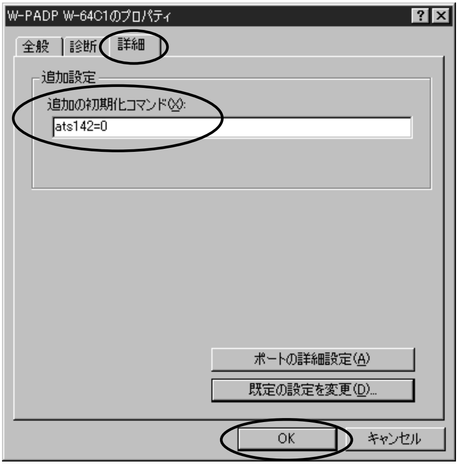
3 ［モデム］タブをクリックし、一覧の中の「W-PADP W-64C1」を選択して［プロパティ］をクリックします。



（次ページへ続く）

Windows® 2000で使うには

4 **［W-PADP W-64C1のプロパティ］画面で、［詳細］タブをクリックし、「追加の初期化コマンド」に「ats142=0」を入力して［OK］をクリックします。**



5 **すべての画面で［OK］をクリックします。**

環境設定ソフトをインストールするには

本商品には、環境設定ソフト「64C1Setup」が付属しています。
環境設定ソフトは、本商品の通信状態の確認や各種の登録・設定操作を画面に表示しながら行うための、Windows® 95/98/Me/2000対応とWindows® CE対応のアプリケーションソフトです。
環境設定ソフトの内容は、Windows® 95/98/Me/2000版とWindows® CE版は、画面の配置を除けばほとんど同じですので、Windows® 95/98/Me/2000版で説明します。Windows® CE版をご使用のかたは、説明文の「クリック」を「タップ」に読み替えてください。

必要な機器について

Windows® 95/98/Me/2000版の環境設定ソフトをご利用いただくには、次の機器が必要となります。

パソコン本体	Windows® 95/98/Me/2000のいずれかが動作するパソコン
カード インタフェース	「PC Card Standard 95準拠以上」または「CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4準拠以上」
必要メモリ	16 MB以上（推奨32 MB以上）
ハードディスク	インストール時に最低1 MB以上の空き容量が必要
OS	日本語Microsoft Windows® 95/98/Me/2000のいずれか
CPU	Pentium 100 MHz以上（推奨 166 MHz以上）

Windows® CE版の環境設定ソフトをご利用いただくには、次の機器が必要となります。

PDA/ハンドヘルドPC本体	Windows® CE（2.0以上、H/PC Pro3.0、Palm Size PC1.1/1.2）が動作するPDAまたはハンドヘルドPC
カード インタフェース	「PC Card Standard 95準拠以上」または「CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4準拠以上」
必要メモリ	推奨16 MB以上 インストール時に最低1 MB以上の空き容量が必要
OS	Windows® CE（2.0以上、H/PC Pro3.0、Palm Size PC1.1/1.2）
CPU	SH3/SH4/MIPS/ARMのいずれか

環境設定ソフトをインストールするには

インストールの準備

Windows® 95/98/Me/2000版の場合には、この準備は必要ありません。
Windows® CE版の場合には、Windows®パソコンとご使用のPDA／ハンドヘルドPCを接続してファイルのコピーを行います。
ファイルのコピーを行うには、パソコンとPDA／ハンドヘルドPCがパートナー関係を結ぶ必要があります。
また、ご使用のWindows® CE機のCPUの種別を事前に確認してください。

※パートナー関係を結ぶ手順、CPUの種別については、ご使用製品のメーカにお問い合わせください。

■Windows® CE版インストールの準備

① 添付の「環境設定ソフト」フロッピーディスクをパソコンにセットし、フロッピーディスク内の「WinCE」フォルダをダブルタップします。



② 4個の自己解凍式ファイルが表示されますので、この中からご使用のWindows® CE機のCPUに合ったものをダブルタップします。

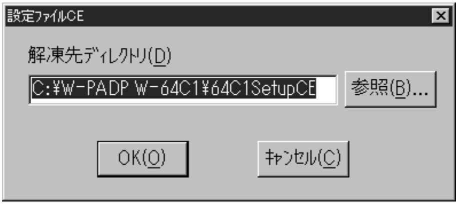
CPUが「ARM」の場合　　－64C1SetupARM.EXE
CPUが「MIPS」の場合　　－64C1SetupMIPS.EXE
CPUが「SH3」の場合　　－64C1SetupSH3.EXE
CPUが「SH4」の場合　　－64C1SetupSH4.EXE



（次ページへ続く）

環境設定ソフトをインストールするには

③ 機種に合ったファイルをダブルクリックすると解凍位置の確認が表示されます。［OK］をタップしてください。



上の画面で［OK］をクリックした場合は、以下の構成で解凍されます。

C：ドライブ
└──「W-PADP W-64C1」フォルダ
　　└──「64C1SetupCE」フォルダ
　　　　└──「64C1SetupXXX」（選んだCPU名の付いた）フォルダ
　　　　　　├── 64C1SetupCE.exe
　　　　　　│　（Windows® CE XXX用環境設定ソフト）
　　　　　　│「HelpFile」フォルダ
　　　　　　└── 64C1SetupCE.htmなど
　　　　　　　　　（ヘルプファイル）

④ 解凍が終わりましたら、解凍先フォルダ内に実行ファイル
「64C1SetupCE.exe」が作成されているのを確認してください。
解凍後、ハードディスクには以下のようなフォルダが作成されています。

CPUが「ARM」の実行ファイルを解凍した場合
C:\W-PADP W-64C1\64C1SetupCE\64C1SetupARM

CPUが「MIPS」の実行ファイルを解凍した場合
C:\W-PADP W-64C1\64C1SetupCE\64C1SetupMIPS

CPUが「SH3」の実行ファイルを解凍した場合
C:\W-PADP W-64C1\64C1SetupCE\64C1SetupSH3

CPUが「SH4」の実行ファイルを解凍した場合
C:\W-PADP W-64C1\64C1SetupCE\64C1SetupSH4



例）CPU「SH4」用を解凍した場合

（次ページへ続く）

環境設定ソフトをインストールするには

環境設定ソフトをインストールする

■Windows® 95/98/Me/2000版の場合

付属の環境設定ソフトのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、フロッピーディスクに入っている「Win95_98_Me_2000」フォルダをハードディスクの適当な位置にコピーします。

■Windows® CE版の場合

① 環境設定ソフトをコピーしたパソコンに、パートナー関係を結んだWindows® CE機を接続します。

② 解凍したファイルをパソコンからWindows® CE機へコピーします。
コピーするファイルは、以下のとおりです。
「64C1SetupCE.exe」（Windows® CE XXX用環境設定ソフト）
「64C1SetupCE.htm」など「HelpFile」フォルダ内の全ファイル
各ファイルのコピーは、以下の位置に行います。
「64C1SetupCE.exe」　→「My Documents」フォルダ内にコピーしてください。
「64C1SetupCE.htm」など→「Windows」フォルダ内にコピーしてください。

メイン画面について

環境設定ソフトを起動する

Windows® 95/98/Me/2000版の場合は、ハードディスクにコピーした「Win95_98_Me_2000」フォルダをダブルクリックして開き、その中の「64C1Setup.exe」アイコンをダブルクリックします。

Windows® CE版の場合は、「64C1SetupCE.exe」アイコンをダブルタップします。

● メイン画面（☛P76）が表示されます。

お知らせ

●環境設定ソフトで通信ポートを取得したまま（通信ポート取得／開放ボタンがON）他の通信ソフト（インターネットエクスプローラやハイパーターミナル）を使うことはできません。他の通信ソフトをお使いになる場合は、必ず環境ソフトの通信ポートをOFFにしてください。

お願い

●環境設定ソフトを利用している間は、本商品をパソコンから取り外さないでください。

メイン画面について

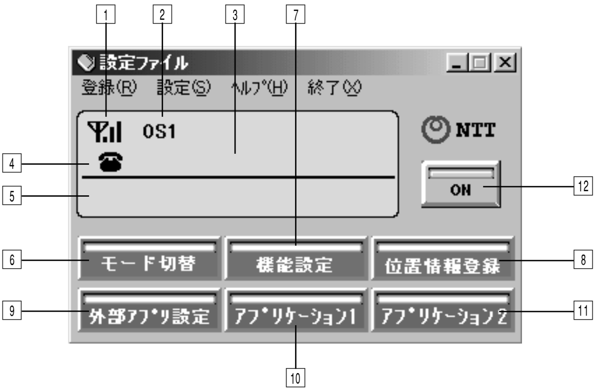
メイン画面の見かた

環境設定ソフト「64C1Setup」を起動すると、メイン画面が表示されます。

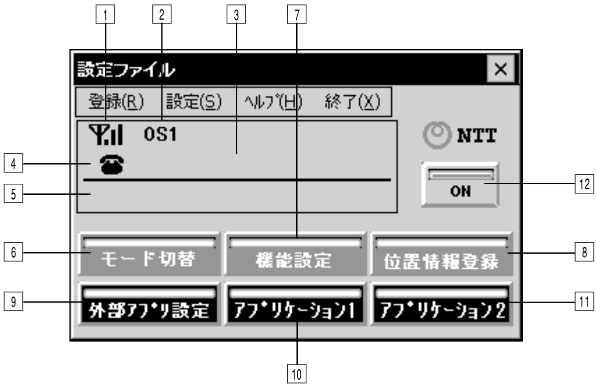
● 本商品が認識されると、現在の設定内容を読み込みます。

1 受信レベル表示
2 待ち受けモード表示
3 電話番号表示欄
4 オンフック／オフフック表示
5 メッセージ表示欄
6 モード切替ボタン
7 機能設定ボタン
8 位置情報登録ボタン
9 外部アプリ設定ボタン
10 アプリケーション1起動ボタン
11 アプリケーション2起動ボタン
12 通信ポート取得・開放ボタン

■Windows® 95/98/Me/2000版のメイン画面



■Windows® CE（ハンドヘルドPC）版のメイン画面



■Windows® CE（Palm Size PC）版のメイン画面



メイン画面について

■通信ポート（COMポート）について

パソコンなどの設定によっては、環境設定ソフトを起動した直後に「通信ポートの取得に失敗しました」と表示される場合があります。この場合は、［OK］をクリックして表示を消し、コントロールパネル内の「モデム」アイコンをダブルクリックします。「W-PADP W-64C1」を選択して［プロパティ］をクリックし、「ポート」に表示されている番号（「COM2」など）をメモなどに控えてから、環境設定ソフトの「通信ポート設定」（☛P89）で通信ポートを控えておいた番号に変更し、通信ポート取得・開放ボタンをクリックしてください。

■受信レベル表示について

本商品は受信レベルを一定の間隔で確認しているため、環境設定ソフトを起動した直後や受信モードを変更した直後は、圏内の場合でも受信レベルを表示しないことがあります。圏内で、通信ポートが正しく設定されている場合は数秒後に表示しますので、あらかじめご了承ください。（圏内／圏外については、本体のSPEED、MODEランプでも確認できます。☛P22）

■操作するときは

通信ポート取得・開放ボタンをクリックすると、ボタンが緑色に変わり、本商品の設定操作が可能になります。再びクリックすると、ボタンが赤色に変わり、環境設定ソフトでは本商品を操作できなくなりますが、他のソフトで本商品を利用できるようになります。

■通信するときは

通信ポート取得・開放ボタンをクリックして通信ポートを開放してください。環境設定ソフトが通信ポートを取得したままでは通信できません。

■終了するときは

メニューの「終了」を選択すると、確認メッセージが表示され、［OK］をクリックすると終了します。

●環境設定ソフトを終了する前に、必ず通信ポート取得・開放ボタンをクリックして通信ポートを開放してください。通信ポートを取得したまま終了すると、他のソフトで本商品を利用できなくなります。

モードを設定するには

モードについて

次の待ち受けモードが利用できます。

モード	こんなときに	メイン画面上のモード表示
公衆モード	NTTドコモのPHSサービスを利用するとき	公衆
オフィスステーションモード	ISDNコードレスホンの子機として利用するとき 構内の内線電話回線を利用するとき	OS1、OS2、OS3 （いずれか1つ）

● 公衆モード（オフィスアンテナも含む）とオフィスステーションモードを組み合わせて待ち受ける、「デュアルモード」も利用できます。

※デュアルモード設定時に公衆で発信する操作をした場合、公衆、OAのうち、いずれか発信可能なモードで発信されます。

お知らせ

●モードによっては、他の機器のご購入や登録が必要です。

●モード切り替え画面でOA設定を「ON」に設定しておくと、公衆モードやオフィスステーションモードで、オフィスアンテナが使用できるようになったときに「OA」と表示されます。
〈オフィスアンテナとは〉
事業所コードレスシステムに「PHSインタフェースユニット」が接続されている場合、PHSディジタル回線を引き込むことにより、公衆基地局からの電波が届かない構内の奥の方でも、構内の内線電話とPHSサービス（オフィスアンテナ）の両方の回線を利用することができます。

●通信ポート取得・開放ボタンをON（緑色）にしているとき、本商品を使って他の通信ソフトを同時に使用することはできません。

モードを設定するには

モードを設定する

1 メイン画面の［モード切替］をクリックします。

［モード切替］画面が表示されます。

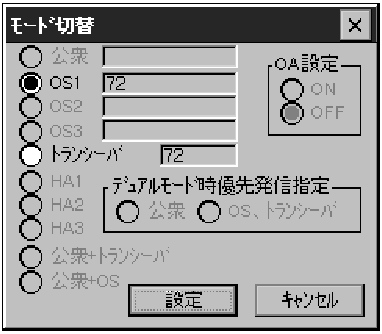
2 設定するモードをクリックします。

登録されていないモードはグレー表示になり、選択できません。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



（次ページへ続く）

モードを設定するには

3 ［設定］をクリックしてメイン画面に戻ります。

選んだモードに本商品が設定されます。
［キャンセル］をクリックすると、選んだモードを取り消してメイン画面に戻ります。
「公衆＋ＯＳ」（「デュアルモード」）を設定した場合は、メイン画面に現在の状態が次のように表示されます。

・「公衆＋ＯＳ」に設定した場合（待ち受け中）

優先発信	優先電波状態	他方の電波状態	表　示
公衆	圏内	圏内	 ＞公衆＋自営
公衆	圏外	圏内	 ＞公衆＋自営
公衆	圏外	圏外	＞公衆＋自営
自営	圏内	圏内	 公衆＋＞自営
自営	圏外	圏内	 公衆＋＞自営
自営	圏外	圏外	公衆＋＞自営

・着信中はアンテナ表示が消え、着信したモード側に「＞」が表示されます。
・「自営」という表示は、ＩＳＤＮコードレスホンの主電話機からの電波を受信すると、「ＯＳ１」という表示になります。

いまどこサービスを利用するには

いまどこサービスとは

いまどこサービス（位置情報サービス）は、PHSサービス網を利用して本商品のおおまかな位置を調べ、地図上に記入してご指定のファクスやパソコンの画面に表示する、NTTドコモのオプションサービスです。

いまどこサービス（位置情報サービス）のご利用には、PHS公衆サービスの他に別途サービスのご契約が必要です。詳しくは、NTTドコモ窓口などにお問い合わせください。

お知らせ

●いまどこサービス（位置情報サービス）は、地域により、ご利用いただけない場合があります。詳しくは、NTTドコモ窓口などにご確認ください。

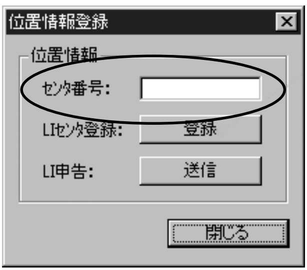
LI（位置情報）センターに利用を登録する

1 メイン画面の［位置情報登録］をクリックします。

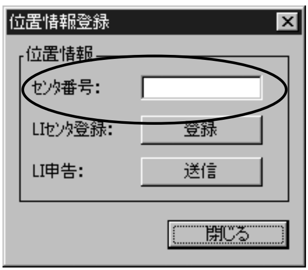
［位置情報登録］画面が表示されます。

2 「センタ番号」欄に、ご契約時に通知されたLI（位置情報）センターの電話番号を入力します。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



（次ページへ続く）

いまどこサービスを利用するには

3 ［登録］をクリックします。

●本商品がLI（位置情報）センターと通信を始めます。
●しばらくして、「センタ番号登録に成功しました」と表示されます。

4 ［OK］をクリックし、［閉じる］をクリックしてメイン画面に戻ります。

LI（位置情報）センターに現在位置を申告する

1 メイン画面の［位置情報登録］をクリックします。

［位置情報登録］画面が表示されます。

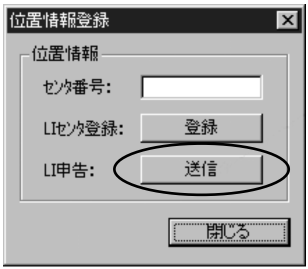
2 ［送信］をクリックします。

本商品がLI（位置情報）センターと通信を始めます。
しばらくして、「位置情報申告完了」と表示されます。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



3 ［OK］をクリックし、［閉じる］をクリックしてメイン画面に戻ります。

> **STOP お願い**
>
> ●必ず、LI（位置情報）センターに登録する操作を完了してから、現在位置を申告してください。未登録のまま申告の操作をすると、「センタ番号が登録されていないので位置情報申告を行うことはできません。」と表示されます。

機能を設定する

「機能設定」の画面では、本商品の各種の機能ON/OFFを設定することができます。

1 メイン画面の［機能設定］をクリックします。

［機能設定］画面が表示されます。

2 設定を変更したい機能の「ON」または「OFF」をクリックし、設定する側に⦿マークをつけます。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



3 ［設定］をクリックしてメイン画面に戻ります。

変更した設定が有効になります。
中止したいときは、［キャンセル］をクリックすると設定を変更しないでメイン画面に戻ります。

■機能設定で設定できる機能

機能名	設定値（初期値）	解　説
着信音	ON/OFF（ON）	着信音をパソコンのスピーカから鳴らすかどうかを設定します。
受信レベル表示	ON/OFF（ON）	メイン画面に受信レベル表示をするかどうかを設定します。表示をやめると消費電力が少なくなります。
状態表示LED	ON/OFF（ON）	本商品のLEDランプの点灯を許可するかどうかを設定します。禁止すると消費電力が少なくなります。（☛P137）
発信者番号通知	ON/OFF（ON）	発信時に自分の電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。
LI通知	ON/OFF（OFF）	いまどこサービス（位置情報サービス）の利用を許可するかどうかを設定します。（☛P83）
フォールバック	ON/OFF（ON）	フォールバック機能を有効にするかどうかを設定します。
通信速度	32K/64K（32K）	通信速度を設定します。

お知らせ

- LI通知は、NTTドコモのいまどこサービス（位置情報サービス）をご契約の場合に限り、実際に有効となります。
- 通信速度設定ではSレジスタ141の内容を設定します。32Kに設定するとSレジスタ141の内容は“０”になります。64Kに設定するとSレジスタ141の内容は“１”になります。
- フォールバックをONに設定した場合は通信速度設定で64Kに設定した場合でもフォールバックして32Kで接続される場合があります。

パルディオメ〜ラ〜などを設定するには

外部アプリケーション設定

「外部アプリケーション設定」は、NTTドコモのPHS公衆サービス利用時に、パソコンによるパルディオEメール、Iメールの送受信や表示、印刷などを行うメール管理ソフト「パルディオメ〜ラ〜」などのアプリケーションソフトを、2つまでメイン画面から起動できるように設定することができます。

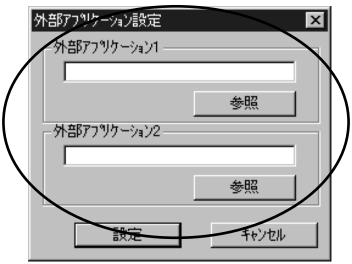
●設定するアプリケーションソフトは、別途インストールしてください。

1 メイン画面の［外部アプリ設定］をクリックします。

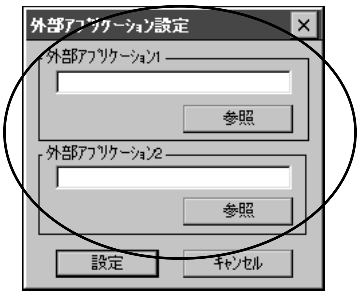
［外部アプリケーション設定］画面が表示されます。

2 「外部アプリケーション1」または「外部アプリケーション2」の欄に、設定するアプリケーションソフトの実行ファイルのパスを入力するか、または［参照］をクリックして実行ファイルを指定します。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



3 ［設定］をクリックしてメイン画面に戻ります。

メイン画面で［アプリケーション1］または［アプリケーション2］をクリックし、［OK］をクリックすると、指定したアプリケーションソフトが起動します。
中止したいときは、［キャンセル］をクリックすると設定しないでメイン画面に戻ります。

通信ポートの設定を変更するには

通信ポートの設定を変更する

「通信ポート設定」は、本商品が使用する通信ポートが変更された場合などに、環境設定ソフトが操作する通信ポートを設定し直すことができます。

1 メイン画面のメニューバーの［設定］をクリックし、［通信ポート設定］をクリックします。

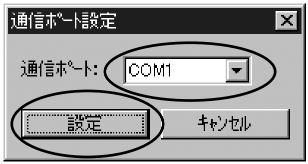
［通信ポート設定］画面が表示されます。

2 「通信ポート」のコンボボックスの▼をクリックして通信ポートを選択します。

■Windows® 95/98/Me/2000版の画面



■Windows® CE版の画面



3 ［設定］をクリックしてメイン画面に戻ります。

選択した通信ポートが有効になります。
中止したいときは、［キャンセル］をクリックすると、設定を変更しないでメイン画面に戻ります。

お知らせ

- ●環境設定ソフトは他の通信ソフトと同時に起動できません。同時に使用しないでください。
- ●本商品に割り当てられているポート以外の通信ポートに変更すると、正常に通信できなくなる場合や、他の機器の動作に影響を及ぼす場合があります。必要がない限り、通信ポートの設定は変更しないでください。

ATコマンド形式

ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデムを制御するためのコマンドで、多くのモデムで採用されています。本商品は、ATコマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを追加しています。

ATコマンド一覧

ATコマンドは、以下の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR

ATで始まり、CRコードで終わります（無効のコマンドは、無視されます）。

コマンド	内容	初期値
A	手動着信	―
A/	直前に実行したコマンドの再実行	―
D	発信（ダイヤル）	―
En	コマンドエコー設定	1
Hn	オンフック	―
In	認識コード	―
O	オンラインモードへ復帰	―
Qn	結果コード表示スイッチ	0
Sn	Sレジスタの書き込み	―
Sn?	Sレジスタの表示	―
Un	発着信番号表示有無の設定	0
Vn	結果コード制御	1
Xn	拡張応答コードの速度表示の有無の選択	4
Zn	本商品のリセット	0
&Cn	回路CD制御	1
&Dn	回路ER制御	2
&En	速度表示の設定	0
&F	現在の設定値の初期化	―
&Gn	PTEモデムのガードトーン設定	0
&Kn	シリアルポートフロー制御	3
&Sn	回路DR制御	0
&Wn	現在の設定を不揮発性メモリに書き込む	0
&Zn	不揮発性メモリの初期化	0
#ANT?	受信レベル簡易表示	―
#M	アダプタ間接続プロトコル設定	0

コマンド	内容	初期値
＃M?	接続プロトコル表示	―
＃PCn	圧縮プロトコル設定	1
＃PM	PTE番号の指定	1
＃PNn	PTE番号の登録	―
＃SBn	発信者番号通知	1
＃SNn?	電話番号の表示	―
＃SY1	待ち受けモード設定	10
＃SY?	待ち受けモード表示	―
%Cn	無線区間データ圧縮プロトコル設定	0
%En	オートリトレインの設定	2
%Un	DTE速度自動検出機能	0
￥An	MNP最大ブロックサイズの設定	3
￥B	ブレーク信号の送出	―
￥Kn	ブレーク信号受信時の動作の設定	5
￥Nn	エラー訂正動作モードを設定	3
￥S	レジスタ設定値表示	―
￥Vn	接続時の応答コード仕様の選択	0
＋PLE	LED ON/OFF設定	1
＋WS46	ユーザモード設定	26
＋WS46?	ユーザモード表示	―
＋WS46=?	ユーザモード設定可能値問い合わせ	―
＋＋＋	エスケープ命令	―

ATコマンド形式

結果コード

送出したコマンドに対して表示される本商品からの応答結果を、結果コードといいます。表示される結果コードには、文字形式と数字形式があり、「ATVコマンド」で選択することができます。（☛P107）

〈文字形式〉

CR	LF	結果コード（文字）	CR	LF

〈数字形式〉

結果コード（数字）	CR

文字	数字	意味
OK	0	コマンド正常終了
CONNECT	1	接続終了
RING	2	着信あり
NO CARRIER	3	回線切断
ERROR	4	コマンドエラー
BUSY	7	相手先ビジー
NO ANSWER	8	相手応答なし
DELAYED	F	リダイヤル規制
OUT OF SERVICE	104	圏外
PS NO RESPONSE	106	PSレスポンスなし
RESTRICTION	107	発信規制中
CALLING-ID=0312345678	ー	発信ID表示
CONNECTED-ID=0312345678:PHS 64KDATA	ー	着信ID表示

接続結果コード（1）

設定コマンド	文字	数字
AT\V0　AT&E0	「CONNECT」のみ表示	1
AT\V1　AT&E0	「CONNECT」「回線速度」	1「回線速度」
AT\V1　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」	1「シリアル速度」
AT\V2　AT&E0	「CONNECT」「回線速度」/「無線プロトコル」	1「回線速度」「無線回線プロトコル」
AT\V2　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」/「無線プロトコル」	1「シリアル速度」「無線回線プロトコル」
AT\V3　AT&E0	「CONNECT」「回線速度」/「無線回線圧縮」	1「回線速度」「無線回線圧縮」
AT\V3　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」/「無線回線圧縮」	1「シリアル速度」「無線回線圧縮」
AT\V4　AT&E0	「CONNECT」「回線速度」/「公衆回線キャリア速度」	1「回線速度」「公衆回線キャリア速度」
AT\V4　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」/「公衆回線キャリア速度」	1「シリアル速度」「公衆回線キャリア速度」
AT\V5　AT&E0	「CONNECT」「回線速度」/「公衆回線プロトコル」	1「回線速度」「公衆回線プロトコル」
AT\V5　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」/「公衆回線プロトコル」	1「シリアル速度」「公衆回線プロトコル」
AT\V6　AT&EO	「CONNECT」「回線速度」/「公衆回線圧縮」	1「回線速度」「公衆回線圧縮」
AT\V6　AT&E1	「CONNECT」「シリアル速度」/「公衆回線圧縮」	1「シリアル速度」「公衆回線圧縮」

ATコマンド形式

接続結果コード（2）

文字	数字	意味
32000	121	「回線速度」
64000	122	「回線速度」
2400	10	「シリアル速度」
4800	11	「シリアル速度」
9600	12	「シリアル速度」
19200	16	「シリアル速度」
38400	17	「シリアル速度」
57600	18	「シリアル速度」
115200	19	「シリアル速度」
NONE	69	「無線回線圧縮」
PIAFS	82	「無線回線プロトコル」
PIAFS64	85	「無線回線プロトコル」
CARRIER 300	201	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 1200	202	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 2400	203	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 4800	204	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 7200	205	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 9600	206	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 12000	207	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 14400	208	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 16800	209	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 19200	210	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 21600	211	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 24000	212	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 26400	213	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 28800	214	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 31200	215	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 33600	216	「公衆回線キャリア速度」
CARRIER 64000	220	「公衆回線キャリア速度」

文字	数字	意味
NONE	230	「公衆圧縮プロトコル」
MNP4	231	「公衆圧縮プロトコル」
LAPM	232	「公衆圧縮プロトコル」
NONE	240	「公衆回線圧縮」
MNP5	241	「公衆回線圧縮」
V42bis	242	「公衆回線圧縮」

レジスター覧

レジスタは、設定内容を記憶しておく場所です。本商品には、以下のSレジスタがあります。

レジスタ	説明
S0	自動着信するまでの呼び出し回数　初期値：0=0回
	0～255
	自動着信するまでの呼び出し回数。このレジスタが「0」である場合は自動着信しない。呼び出し回数1回は、約3秒に相当する。
S1	呼び出し時間
	着信してからの呼び出し時間（秒）を測定する。（読み出し専用、書き込み不可）
S2	エスケープキャラクタ　初期値：43
	0～127
	このレジスタが「127」である場合はエスケープ処理を無効とする。
S3	キャリッジリターン［CR］キャラクタ　初期値：13
	13（固定値）
	ATコマンド文字列の最後を認識するキャラクタを定義する。また、エコーバックされたコマンド文字列と結果コードの最後につける。
S4	ラインフィード［LF］キャラクタ　初期値：10
	10（固定値）
	英文字で結果コードを表示する場合、［CR］キャラクタのあとにこのキャラクタをつける。
S5	バックスペースキャラクタ　初期値：8
	8（固定値）
	ATコマンド入力中にこのキャラクタを検出したら、入力バッファの最終キャラクタを入力バッファから削除する。
S7	接続待ち時間　初期値：58＝58秒
	0～60
	時間内にモデム間接続シーケンスが完了した場合、結果コードを表示してオンラインモードへ移行する。接続に失敗し、タイムアウトした場合、結果コードを表示してコマンドモードに戻る。
S9	キャリア認識時間　初期値：6＝600 m秒
	1～255（100 m秒）
	回線からの信号をキャリアと認識するまでの時間を設定する。

レジスタ	説明
S10	キャリア損失許容時間　初期値：14＝1400 m秒
	1～255（100 m秒）
	オンラインモードで回線からのキャリアが切られた場合、この設定時間内に復旧した場合は回線断とみなさない。
S12	エスケープガード時間　初期値：50（1秒）
	0～255（1/50秒）
	0：タイマ値を設定しない 1～255：設定値×0.02秒をガード時間とする
	エスケープコードのガード時間を設定する。
S32	XONキャラクタ　初期値：17
	0～255
	ソフトフロー制御時の送信許可キャラクタ（XON）を設定する。
S33	XOFFキャラクタ　初期値：19
	0～255
	ソフトフロー制御時の送信禁止キャラクタ（XOFF）を設定する。
S85	第2コール接続失敗理由　初期値：255
	0～255
	PTE接続の際にPTEから相手先への接続が失敗した理由を保持する。
S86	網切断理由
	網から切断された理由を保持する。次のD、Z、Aコマンド実行および着信または電源断までは内容を保持する。（読み出し専用、書き込み不可）
S88	アダプタ切断理由
	本商品が回線を切断した場合、理由を保持する。次のD、Z、A、&Fコマンド実行および着信または電源断までは内容を保持する。（読み出し専用、書き込み不可）
S89	第2コール接続待ち時間　初期値：90=90秒
	90（秒：固定値）
	PTE接続の際に通信先までの接続を待つ秒数を設定。
S103	着サブアドレスの区切り　初期値：2［＊］
	0：／スラッシュ 1：＼バックスラッシュまたは￥マーク 2：＊アスタリスク
	着サブアドレスを付加して発信する場合、区切りを選択する。

ATコマンド形式

レジスタ	説明
S104	発サブアドレスの区切り　初期値：0［#］
	0：#シャープ 1：%パーセント 2：&アンパサント
	発サブアドレスを付加して発信する場合、区切りを選択する。
S110	PTE接続指定　初期値：0
	0：入力コマンドどおり発信　　1：PTE接続手順による発信
	ATDコマンド、ATDTコマンドの入力に対して、PTE接続（ATDPコマンド）とするかを選択する。
S141	無線区間通信速度指定　初期値：0
	0：32 kbps　　1：64 kbps
	通信速度を指定する。
S142	64 kbpsから32 kbpsへのフォールバック　初期値：1
	0：フォールバック機能OFF　　1：フォールバック機能ON
	64Kデータ通信での発信時、64Kデータ通信ができない場合に、自動的に32 kbpsで再ダイヤルするかどうかを選択する。
S170	優先発信モードを指定　初期値：1
	0：公衆モード　　1：自営モード
	デュアルモードを設定した時の優先発信モードを指定する。

コマンドモードとオンラインモード

パソコンから送信されたデータが、本商品を制御するデータか、相手へ送信するデータかを区別するため、次の2つのモードが用意されています。

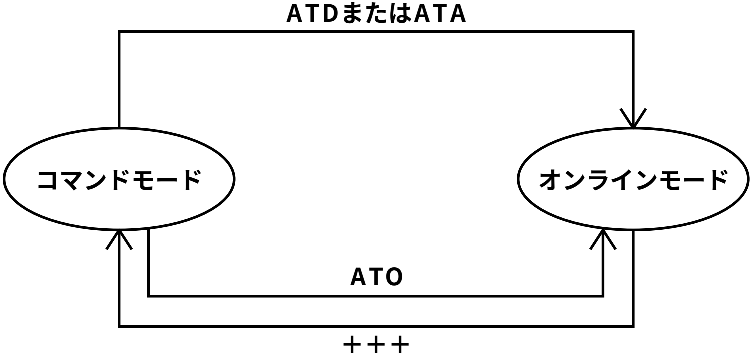
〈コマンドモード〉

パソコンから入力した文字を、本商品の制御コマンドとみなすモードです。

〈オンラインモード〉

実際にデータ通信が行われているモードで、パソコンから入力した文字がそのまま通信相手へ送信されます。

初期状態ではコマンドモードになっており、ATDコマンドで発信したり、ATAコマンドで着信したあと、オンラインモードに切り替わります。
また、オンラインモードから一時的にコマンドモードに切り替えるコマンドとして、エスケープシーケンス（＋＋＋）があります。



ATコマンドを入力するには

通信ソフトウェア（Windows® 98のハイパーターミナルなど）を利用して、ATコマンドを入力します。また、「AT」と入力することにより、本商品が正しく接続されていることを確認することができます。

〈例〉Windows® 98のハイパーターミナルを利用して接続を確認する場合

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］の順にポイントし、［ハイパーターミナル］をクリックします。

［Hyper Terminal］画面が表示されます。

2 ［Hypertrm］アイコンをダブルクリックします。



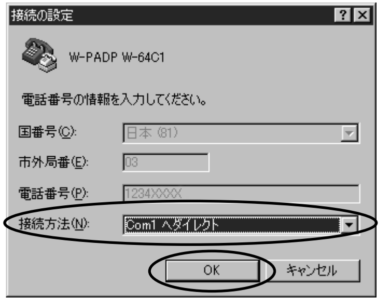
3 「名前」に任意の名前を入力し［OK］をクリックします。

本商品の設定用の名前を付けて保存すると便利です。



4 「接続方法」に本商品が接続されているポートへのダイレクトを選択し、［OK］をクリックします。

〈例〉com1ポートに接続しているとき…「com1へダイレクト」



［COM1のプロパティ］画面が表示されます。

5 通信速度などの設定を入力し、［OK］をクリックします。

本商品の設定用の名前を付けて保存すると便利です。

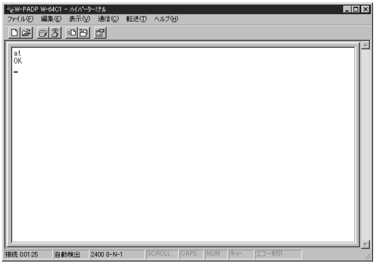


ATコマンドを入力できる状態になります。

（次ページへ続く）

ATコマンドを入力するには

6「AT」を入力し、リターン（またはEnter）を押します。



本商品が正しく接続されているときは、「OK」と表示されます。

お知らせ

- ●「ハイパーターミナル」以外の通信ソフトウェアをご利用の場合は、お使いのソフトウェアの説明書などを参照して起動し、ATコマンドを入力してください。
- ●ATコマンド入力についての詳細は、各ソフトウェアメーカ、プロバイダ、パソコン通信業者にお問い合わせください。

ATコマンド詳細

A	手動着信
機能	着信処理を行う。
書式	A
入力例	ATA

A/	直前に実行したコマンドの再実行
機能	直前に実行したコマンドを再実行する。
書式	[A/]（ATは不要）
入力例	A/

ATコマンド詳細

D	発信	
機能	発信を行う。	
書式	D［パラメータ］［電話番号］	
パラメータ	L、N	最終番号の再ダイヤル（システム指定付き発信の再ダイヤルも含む）
	0～9、#、(、)、－、SPACE、T	電話番号 （ただし、電話番号中の(、)、－、SPACEは読み飛ばす）
	P	PTEダイヤル
	C	きゃらトークの送信 （送信できる文字は、半角カナ、英数字のみ。送信可能な最大文字数は、きゃらトークの制限による。メッセージはATDコマンドに続けて「"」で囲んで入力する。メッセージ本文に「"」が含まれていると、それ以後の文字は無視される）
	#	発サブアドレスの区切り （区切り文字はS104レジスタで「#」、「%」、「&」のいずれかに変更できる）
	＊	着サブアドレスの区切り （区切り文字はS103レジスタで「/」、「\」、「＊」のいずれかに変更できる）
入力例	ATD0312345678	
補足	「＊」、「#」をサブアドレスに選んだ場合、その番号は電話番号には使用できない。サブアドレスに「：SY」を使用できない。 発サブアドレスは以下の文字コードで指定する。 省略した場合には、#Mコマンド、S141で指定したパラメータを発サブアドレスに設定して発信する。 32　64　0100　0101　0110　0111 S110=1の場合、パラメータが電話番号ならば、PTE用発信を行う。 （発サブアドレスの意味は、P120参照）	

En	コマンドエコー設定	
機能	DTEから送られた文字を、エコーとしてDTEに返すかどうかを設定する。	
書式	En	
サフィックス	n=0	コマンドエコーなし
	n=1	コマンドエコーあり（初期値）
入力例	ATE1	

Hn	オンフック	
機能	通信の切断処理を行う。	
書式	Hn	
サフィックス	n=0	オンフック
入力例	ATH0	

In	認識コード	
機能	認識コードを表示する。	
書式	In	
サフィックス	n=0	504853（カードの製品コード）
	n=1	PHS
	n=2	NTTEAST／NTTWEST
	n=3	製品バージョン番号（Version Revisionの順に表示）
	n=4	製品名（W-PADP W-64C1）
入力例	ATI0	

O	オンラインモードへ復帰
機能	オンラインコマンドモード（エスケープモード）から、オンラインモードへ戻る。
書式	O（オー）
入力例	ATO

ATコマンド詳細

Qn	結果コード表示スイッチ	
機能	DTEへの結果コードを表示するかどうか設定する。	
書式	Qn	
サフィックス	n=0	結果コードを表示する（初期値）
	n=1	結果コードを表示しない
入力例	ATQ0	

Sn	Sレジスタの書き込み
機能	Sレジスタn番にDTEより入力された値mを書き込む。
書式	Sn=m（n：Sレジスタ番号、m：値）
入力例	ATS0=1
補足	「n」、「m」は10進数で指定する。

Sn?	Sレジスタの表示
機能	Sレジスタn番の値をDTEへ表示する。
書式	Sn？（n：Sレジスタ番号）
入力例	ATS0？
補足	「n」は10進数で指定する。

Un	発着信番号表示有無の設定	
機能	着信したとき、自分の電話番号や相手の電話番号を表示するかどうかを設定する。	
書式	Un	
サフィックス	n=0	発信番号の表示なし、着信番号の表示なし（初期値）
	n=1	発信番号の表示あり、着信番号の表示なし
	n=2	発信番号の表示なし、着信番号の表示あり
	n=3	発信番号の表示あり、着信番号の表示あり
入力例	ATU0	
補足	＜結果コード＞ ●発信番号は、次の形式で表示される。 CALLING-ID=発アドレス/発サブアドレス ●着信番号は、次の形式で表示される。 CONNECTED-ID=着アドレス/着サブアドレス：通信内容 [通信内容の意味] PHS 32KDATA （32kPIAFSモード） PHS 64KDATA （64kPIAFSモード） ●表示後、「RING」を表示する。 ●各番号が通知されないとき、「-」を表示する。 【表示例】 ATU3を指定した時に、発アドレス1234、発サブアドレスなし、着アドレス6789、着サブアドレス7890で着信した場合 RING CALLING-ID=1234/- CONNECTED-ID=6789/7890：PHS 32KDATA	

Vn	結果コード制御	
機能	すべての結果コードを数字表記または英文字表記に設定する。	
書式	Vn	
サフィックス	n=0	数字形式（10進）
	n=1	英文字表記（初期値）
入力例	ATV1	

ATコマンド詳細

Xn	拡張応答コードの速度表示の有無の選択	
機能	接続時のCONNECT表示に速度表示の有無を設定する。	
書式	Xn	
パラメータ	0	速度表示なし
	1	速度表示あり
	2	速度表示あり
	3	速度表示あり
	4	速度表示あり（初期値）
入力例	ATX0	

Zn	本商品のリセット	
機能	本商品のリセットを行う。	
書式	Zn	
サフィックス	n=0	リセット
入力例	ATZ0	
補足	通信中に本コマンドが入力された場合、回線の切断処理を行う。	

&Cn	回路CD制御	
機能	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択する。	
書式	&Cn	
サフィックス	n=0	回路CD信号常時ON
	n=1	データリンクが張られているときはON（初期値）
入力例	AT&C1	

&Dn	回路ER制御	
機能	DTEから受け取る回路ER信号がONからOFFへ変化したときの動作を選択する。	
書式	&Dn	
サフィックス	n=0	無視（常時ONとみなす）
	n=1	ONからOFFでオンラインコマンドモードへ移行
	n=2	ONからOFFで回線切断（初期値）
	n=3	ONからOFFで回線切断し、電源投入時の状態になる
入力例	AT&D2	

&En	速度表示の設定	
機能	接続時の速度表示を無線区間の回線速度とするか、DTEシリアル速度とするか設定する。	
書式	&En	
サフィックス	n=0	回路速度を表示する（初期値）
	n=1	DTEシリアル速度を表示する
入力例	AT&E0	
補足	（AT¥V1～6設定時に有効）	

&F	現在の設定値の初期化
機能	すべてのレジスタをお買い求め時の内容に戻す。
書式	&F
入力例	AT&F
補足	通信中に本コマンドが入力された場合、回線の切断処理を行う。

ATコマンド詳細

&Gn	PTEモデムのガードトーン設定	
機能	PTEモデムのガードトーンを設定する。	
書式	&Gn	
サフィックス	n=0	ガードトーンを送出しない（初期値）
	n=2	1800Hzのガードトーンを送出する
入力例	AT&G0	
補足	このコマンドはPTE接続時のみ有効。	

&Kn	シリアルポートフロー制御	
機能	本商品とDTEの間のフロー制御を設定する。	
書式	&Kn	
サフィックス	n=3	RS/CS（ハードウェア）フロー制御（初期値）
	n=4	XON/XOFF（ソフトウェア）フロー制御
入力例	AT&K3	

&Sn	回路DR制御	
機能	出力するデータセットレディ信号の制御を設定する。	
書式	&Sn	
サフィックス	n=0	常時ON（初期値）
	n=1	ER信号ON時にDR信号ON ER信号OFF時にDR信号OFF
入力例	AT&S0	

&Wn	現在の設定を不揮発性メモリに書き込む	
機能	現在の設定値を記憶する。	
書式	&Wn	
サフィックス	n=0	不揮発性メモリ0へ記憶する（初期値）
入力例	AT&W0	

&Zn	不揮発性メモリの初期化	
機能	不揮発性メモリの内容を工場出荷時の内容に戻す。	
書式	&Zn	
サフィックス	n=0	メモリ0を初期化（初期値）
入力例	AT&Z0	
補足	●通信中に本コマンドが入力された場合、回線の切断処理を行う。 ●AT#PNn=xxxで設定されたPTE番号は初期化されない。	

#ANT?	受信レベル簡易表示
機能	アンテナレベルを表示する。
書式	#ANT?
入力例	AT#ANT?
補足	＜結果コード＞ 圏外は0、圏内は1～4、7は通知不可能

1	
2	
3	
4	

#M	アダプタ間接続プロトコル設定	
機能	通信に先立ってアダプタ間接続プロトコルを設定する。	
書式	＃M＝n（n＝0）	
パラメータ	0	PIAFSプロトコル（初期値）
入力例	AT#M=0	
補足	＜パラメータ＞ 0：PIAFSプロトコル	

#M?	接続プロトコル表示
機能	設定されている接続プロトコルを表示する。
書式	#M？
入力例	AT#M?
補足	＜結果コード＞

ATV1コマンドで英文字表記の場合	PIAFS
ATV0コマンドで数字表記の場合	0

ATコマンド詳細

#PCn	圧縮プロトコル設定	
機能	圧縮プロトコルを設定する。	
書式	#PCn	
サフィックス	n=0	データ圧縮なし
	n=1	V.42bisデータ圧縮（初期値）
	n=2	V.42bisデータ圧縮
	n=3	V.42bisデータ圧縮
入力例	AT#PC1	
補足	モデム間の圧縮は行わない。	

#PM	PTE番号の指定	
機能	PTE番号を指定する。	
書式	#PM=n	
サフィックス	n=1	PTE番号1を使用する
	n=2	PTE番号2を使用する
	n=3	PTE番号3を使用する
入力例	AT#PM=1	
補足	あらかじめ、AT#PNコマンドでPTE番号を登録しておく必要がある。	

#PNn	PTE番号の登録	
機能	PTE番号を登録する。（最大20桁まで登録可能）	
書式	#PNn=［PTE番号］	
サフィックス	n=1	PTE番号1に登録する
	n=2	PTE番号2に登録する
	n=3	PTE番号3に登録する
入力例	AT#PN1=1	
補足	電話番号を入れずにリターンした場合、内容をクリアする。	

#SBn	発信者番号通知	
機能	発信者番号を相手に通知するかどうかを設定する。	
書式	#SBn	
サフィックス	n=0	通知しない
	n=1	発信者番号を通知する（初期値）
入力例	AT#SB0	

#SNn?	電話番号の表示	
機能	現在のモードの電話番号を表示する。	
書式	#SNn？	
サフィックス	なし	現在のモードの電話番号（デュアルモード時は優先モード）（初期値）
	n=10	OS1（オフィスステーションモード1）の内線番号
	n=11	OS2（オフィスステーションモード2）の内線番号
	n=12	OS3（オフィスステーションモード3）の内線番号
	n=40	公衆モードの電話番号
入力例	AT#SN?	
補足	デュアルモード時は優先モードの電話番号を表示する。それ以外の各モードの電話番号を表示する場合には、nに10～40のモード番号を入力する。 ＜結果コード＞ 電話番号が070512345XXの場合：070512345XX	

ATコマンド詳細

#SY1	待ち受けモード設定	
機能	待ち受け／発信のモードを設定する。	
書式	#SY1=m	
mパラメータ	40またはPHS	公衆モード
	10、11、12または OS1、OS2、OS3	オフィスステーションモード （10：初期値）
	50またはDUAL	デュアルモード
入力例	AT#SY1=10	
補足	設定内容で優先発信モードを設定する。デュアルモード設定時はS170レジスタの設定内容で優先発信モードを設定する。	

#SY?	待ち受けモード表示
機能	現在のモードを表示する。
書式	#SY?
入力例	AT#SY?
補足	＜結果コード＞ 40またはPHS：公衆モード 10、11、12またはOS1、OS2、OS3：オフィスステーションモード 50またはDUAL：デュアルモード

%Cn	無線区間データ圧縮プロトコル設定	
機能	無線区間のデータ圧縮を行うかどうかを設定する。	
書式	%Cn	
サフィックス	n=0	データ圧縮なし（初期値）
入力例	AT%C0	

%En	オートリトレインの設定	
機能	オートリトレインを行うかどうかを設定する。	
書式	%En	
サフィックス	n=0	オートリトレインしない
	n=1	オートリトレインする
	n=2	回線モニタリングする フォールバック／フォールフォワードしない（初期値）
	n=3	回線モニタリングする フォールバック／フォールフォワードする
入力例	AT%E3	

%Un	DTE速度自動検出機能	
機能	DTE速度の自動検出機能を有効／無効にする。	
書式	%Un	
サフィックス	n=0	DTE自動検出機能有効（初期値）
	n=1	DTE自動検出機能無効 （%Uコマンドが発行されたときのスピードに固定）
入力例	AT%U0	

ATコマンド詳細

￥An	MNP最大ブロックサイズの設定	
機能	MNP接続をするときの最大ブロックサイズを設定する。	
書式	￥An	
サフィックス	n=0	64バイト
	n=1	128バイト
	n=2	192バイト
	n=3	256バイト（初期値）
入力例	AT＼A2	

￥B	ブレーク信号の送出
機能	オンラインコマンドモードでブレーク信号を送出する。
書式	￥B
入力例	AT＼B
補足	長さの設定はできない。（AT￥Bで送出のみ）

¥Kn	ブレーク信号受信時の動作の設定	
機能	ブレーク信号受信時の動作を設定する。	
書式	¥Kn	
サフィックス	n=0	オンラインコマンドモードへ移行する
	n=1	ブレークを送信して可能な限り送信データバッファをクリアする
	n=2	n=0と同じ
	n=3	n=3と同じ
	n=4	n=0と同じ
	n=5	ブレークを送信して可能な限り送信データバッファはクリアしない（初期値） （ブレーク受信側ではブレーク制御フレーム内の「送信データ破棄種別」の設定に従ってバッファクリアを行う）
入力例	AT\K0	

¥Nn	エラー訂正動作モードを設定	
機能	モデム間のエラー訂正動作モードを設定する。	
書式	¥Nn	
サフィックス	n=0	圧縮なし
	n=2	V.42自動選択を許容する
	n=3	V.42自動選択を許容する（初期値）
	n=4	LAPMのみ許容する
	n=5	MNPのみ許容する
入力例	AT\N0	

ATコマンド詳細

￥S	レジスタ設定値表示
機能	現在設定されている各コマンド、各Sレジスタの設定の内容を表示する。
書式	￥S
入力例	AT\S

￥Vn	接続時の応答コード仕様の選択	
機能	接続時の応答コード仕様を選択する。	
書式	￥Vn	
サフィックス	n=0	「CONNECT」のみ表示（初期値）
	n=1	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」を表示
	n=2	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」／ 「無線区間プロトコル」を表示
	n=3	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」／ 「無線区間圧縮」を表示
	n=4	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」／ 「公衆回線キャリア速度」を表示
	n=5	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」／ 「公衆回線プロトコル」を表示
	n=6	「CONNECT」「回線速度またはシリアル速度」／ 「公衆回線圧縮」を表示
入力例	AT\V1	
補足	「回線速度」と「シリアル速度」の変更は、AT&Eコマンドの設定による。	

+PLE	LED ON／OFF設定	
機能	本商品のLEDを使用するかどうかを設定する。	
書式	＋PLE=n	
サフィックス	n=0	本商品のLEDを点灯しない
	n=1	本商品のLEDを点灯する（初期値）
入力例	AT+PTE=0	

+WS46	ユーザモード設定	
機能	パラメータなしのATDコマンドで発信した場合に、発信する通信モードを指定する。	
書式	＋WS46=n	
サフィックス	n=26	PHS対応電話機で発信（初期値）
入力例	AT+WS46=26	

+WS46?	ユーザモード表示
機能	現在のユーザモードを表示する。
書式	＋WS46?
入力例	AT+WS46?

+WS46=?	ユーザモード設定可能値問い合わせ
機能	ユーザモード設定可能値を問い合わせる。
書式	＋WS46＝?
入力例	AT+WS46=?
補足	＜結果コード＞ 26：PHSで発信

ATコマンド詳細

+++	エスケープ命令
機能	データ通信中に回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力できる状態にする。
書式	+++
入力例	+++
補足	●オンラインモードの時、エスケープシーケンスが実行されると回線を切断することなくオンラインコマンドモードに移行する。その後、DTEに「OK」結果コードを表示する。 ●S12レジスタ時間（エスケープガード時間：初期値1秒）以上データ入力がないとき、「+」を3つ連続して入力し（入力の間隔はS12レジスタ時間以内)、再びS12レジスタ時間データ入力がない場合、エスケープシーケンスを実行する。エスケープキャラクタ（初期値「+」）はS2レジスタで変更する。S2=127でエスケープキャラクタは無効となり、オンラインコマンドモードに移行できなくする。 ●オンラインコマンドモードに移行した時、本商品とDTE間速度のまま「OK」商品コードを表示する。オンラインモードに戻るにはATOコマンドを使用する。オンラインコマンドモードでATHコマンドまたはAT&F、AT&Z、ATZコマンドにより、回線を切断してオフラインコマンドモードにする。

発サブアドレスの意味
32　：32kPIAFS で発信
64　：64kPIAFS で発信
0100：ISDNコードレスホンなどを経由して無線32Kで発信
（主電話機の設定によらず、32kPIAFSで発信）（注1）
0101：ISDNコードレスホンなどを経由して無線32Kで発信
（主電話機の設定によりプロトコル変換）
0110：ISDNコードレスホンなどを経由して無線64Kで発信
（主電話機の設定によらず、64kPIAFSで発信）
0111：ISDNコードレスホンなどを経由して無線64Kで発信
（主電話機の設定によりプロトコル変換）

（注1）以下の機種では「#0100」と入力した場合、無線32Kで主電話機の設定によりプロトコル変換します。（平成12年12月現在）
W-1000P、W-1100P、W-1000K、W-1100K、W-3000N、W-3000S、FT-50

いまどこサービス用応答メッセージ一覧

いまどこサービス用応答メッセージ

メッセージ	意味
LI start	LI（位置情報）センターからの要求により位置申告を開始した
LI end	位置申告が終了した

接続失敗／切断理由一覧

第2コール接続失敗理由一覧（S85レジスタ）

値	理由
01	通信相手話中
02	キャリア断
03	第2コールの接続待ちタイマタイムアウト

網切断理由一覧（S86レジスタ抜粋）

値	理由
00	切断理由なし
01	欠番
02	正常切断
16	正常切断
17	着ユーザビジー
18	着ユーザレスポンスなし
19	相手ユーザ呼び出し中
20	相手ユーザ圏外
21	通信拒否
22	加入者番号変更
27	相手端末故障
28	無効番号フォーマット
34	利用可回線/チャネルなし
38	網障害
41	一時的障害
42	交換機輻輳
44	要求回線/チャネル利用不可
88	端末属性不一致

アダプタ切断理由一覧（S88レジスタ）

値	理由	意味
00	通常の回線切断	通常の回線切断
01	発着信衝突	発着信衝突の場合
02	システム指定なし	指定システムなしの場合
03	番号情報不足	番号情報不足の場合
04	手動発信タイムアウト	手動発信タイムアウトの場合
05	自動発信タイムアウト	自動発信タイムアウトの場合
06	PHSサービス圏外	PHSサービスの電波が届かない場所にいる場合
10	S7レジスタによるタイムアウト	S7レジスタのタイマがタイムアウトした場合
15	その他	いずれにも該当しない場合
50	発信要求拒否	発信ができない場合
52	PHSシステム不一致	伝送速度などの不一致の場合
53	PHS故障	カード故障中／カード電源電圧低下の場合
54	PHS応答無し	カードが応答しない場合
55	PHS使用中	カードが通信中／発信中／着信中／位置登録中の場合
60	アダプタ間誤り訂正不一致	1.PIAFS同期要求に対し、応答がない場合 2.PIAFSのネゴシエーションに失敗した場合
61	PIAFS異常終了	PIAFSのデータリンクが正常切断以外の理由により開放された場合
71	ER断	発信中または通信中にER信号オフを検出した場合
72	発信中のキー入力による切断	発信後PIAFS同期確立前に、DTEからのキー入力により通信が切断された場合
73	PHSリスタート	カードのリスタートなどの場合

PHS公衆モードでのデータ通信について

ワイヤレスパソコンアダプタCでは、NTTドコモのPHS回線を利用した64K/32Kデータ通信が行えます。
※FAX通信には対応していません。

PHS64K/32Kデータ通信（PIAFS）の特長

本商品では、PHS回線を利用した64K/32Kデータ通信が行えます。
※本商品は、FAX通信には対応しておりません。

PIAFSではパソコン、携帯端末からのデータをそのまま64 kbps/32 kbpsのデータとして送るため、効率の良い安定したデータ通信ができます。

PIAFSはEND-ENDの通信プロトコルで、ちょうどモデムによるデータ通信と同じようにPIAFSを搭載した機器と通信することができます。

■PIAFSの通信速度
PHSサービスの通信速度は64 kbps/32 kbpsですが、PIAFSによる誤り制御のための機能を追加するためEND-ENDでのデータ実効伝送速度は58.4 kbps/29.2 kbpsとなります。

PHS通信の接続先

PHSを使ったデータ通信の接続先は、PIAFS対応のプロバイダ、またはPTE経由でアナログモデム対応のプロバイダです。

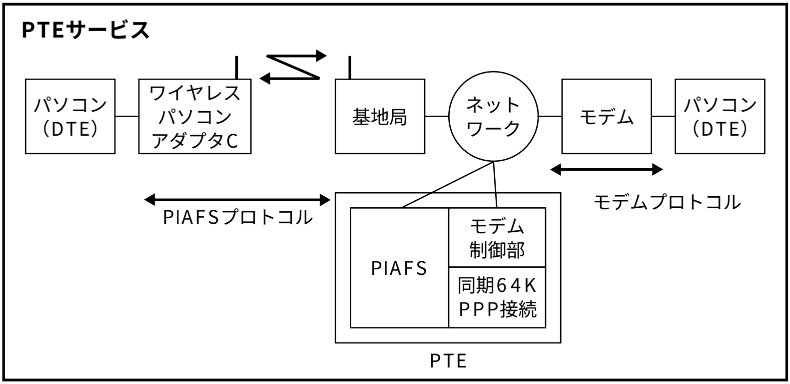
お知らせ

●PHS公衆モードで使用するときは、NTTドコモとのご契約が必要です。詳しくは、NTTドコモ窓口などにお問い合わせください。

プロトコル変換装置（PTE）サービスについて

既存網（モデム）と通信ができるようにPTEサービスが用意されています。これはPIAFSのプロトコルを解釈しモデムのデータへ変換するサービスで、既存のモデムを相手としてデータ通信を行うことができます。
PTEにはITU-T V.34準拠のモデムが用意されており、これを使うことによりPIAFSに対応していないパソコンネットやアナログモデム相手でも、データ通信を行うことができます。PTE経由時の公衆回線速度は最大28.8 kbpsです。
また、64K ISDNにも対応しており、同期64K PPPにも接続可能です。
この場合のPTE経由時の公衆回線速度は、最大58.4 kbpsです。

※PTEの電話番号については、NTTドコモ窓口へお問い合わせください。



お知らせ

- PTE接続は、32K/64Kデータ通信に対応しています。
- PTE接続の場合、本商品からPTEを経由してアナログモデムや同期64K PPP（64K ISDN）への接続はできますが、アナログモデムや同期64K PPP（64K ISDN）からPTEを経由して本商品に接続することはできません。

PHS公衆モードでのデータ通信について

ATコマンドを使ったPTE接続

PTEサービスを受けるには、PTE接続用ATコマンドを使う必要があります。PTEサービスを利用して相手にダイヤルするには、PTEの電話番号と相手の電話番号を指定する必要があり、次の5種類の方法があります。

1 あらかじめPTEの電話番号を登録しておき、発信するときは相手の電話番号のみ指定する方法（その1）

AT#PN1=（PTE電話番号）…………PTEの電話番号を#PN1レジスタに登録する
AT#PM=1 ……………………………使用するPTE電話番号を選択する
ATDP（相手電話番号）………………PTEダイヤルコマンドで発信する

2 あらかじめPTEの電話番号を登録しておき、発信するときは相手の電話番号のみ指定する方法（その2）

AT#PN1=（PTE電話番号）…………PTEの電話番号を#PN1レジスタに登録する
AT#PM=1 ……………………………使用するPTE電話番号を選択する
ATS110=1……………………………発信手順をPTE接続に指定する
ATDT（相手電話番号）またはATD（相手電話番号）

3 発信するときにPTEの電話番号と相手の電話番号を指定する方法（その1）

ATDP（PTE電話番号）＊（相手電話番号）

4 発信するときにPTEの電話番号と相手の電話番号を指定する方法（その2）

ATS110=1……………………………発信手順をPTE接続に指定する
ATDT（PTE電話番号）＊（相手電話番号）
　またはATD（PTE電話番号）＊（相手電話番号）

5 発信するときにPTEの電話番号と相手の電話番号を指定する方法（その3）

AT#PNn=(PTE電話番号)……………PTEの電話番号をいずれかの#PNレジスタに登録する
ATDT（PTE電話番号）＊（相手電話番号）
　またはATD（PTE電話番号）＊（相手電話番号）
【注】PTE電話番号がAT#PN1～3のいずれかに合致すれば、PTE手順で発信します。

※上記の内、5番目の手順で発信すれば、Windows® 95/98/Me/2000でPIAFS対応アクセスポイントへの接続とPTEサービスを利用しての接続の両方をお使いになる場合に、トーンとパルスの選択をし直す必要はなくなります。
（トーンの設定で両方が使用可能になります）

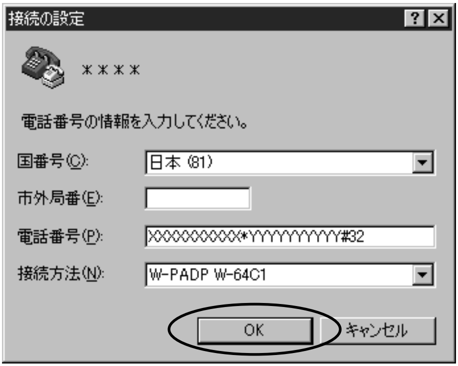
※ハイパーターミナルなどの通信ソフトを使用して、事前に#PNレジスタにPTE電話番号を設定の上ご利用ください。

Windows® 98の「ハイパーターミナル」を使ったPTE接続例

Windows® 98の「ハイパーターミナル」を使ってPTE接続を行うときは、次のようにしてください。
（ここでは、P47の手順4を用いて説明しています。）

1 「通信ソフトを設定する」の手順4（☛P47）の画面で、「電話番号」に接続先の電話番号を「PTE電話番号＊相手の電話番号#32」のように入力し、［OK］をクリックします。

「XXXXXXXXXX」にはPTE電話番号を入力します。
「YYYYYYYYYY」には相手の電話番号を入力します。
PTE電話番号と相手の電話番号の間には「＊」を入力します。
相手の電話番号のあとに「#32」を入力します。



2 ［接続］画面で［変更］をクリックします。

3 「＊＊＊＊プロパティ」画面で、「国番号と市外局番を使う」をクリックしてチェックマークをはずし、［OK］をクリックします。

［接続］画面に戻ります。

（次ページへ続く）

PHS公衆モードでのデータ通信について

4 ［接続］画面で［キャンセル］をクリックし、PTE電話番号を半角文字で次のように入力します。

ここでは、例として「PTE電話番号1」に「XXXXXXXXXX」（PTE電話番号）を登録することにします。

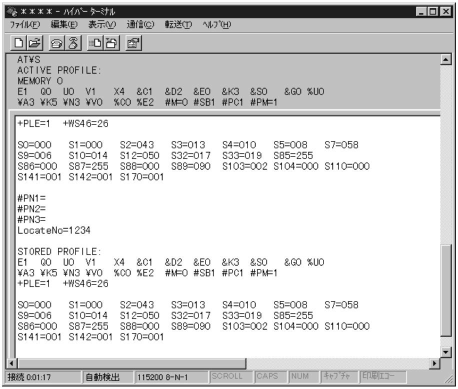
AT#PN1=XXXXXXXXXX



入力後、画面に“ OK ”の表示が出ることを確認してください。

登録内容を確認するときは、次のようにします。

AT\S



上の画面の表示内容は一例です。
この状態からダイヤルしたいときは、「ハイパーターミナル」の接続手順を行ってください。

5 手順4（☛P128）で一度登録したPTE電話番号は、パソコンの電源を切ったり、本商品をパソコンから抜いても保存されています。

以降は、作成した接続先を「ハイパーターミナル」で選ぶたびに、PTE手順でダイヤルされます。

インターネットにもPTE経由でアクセスするには、「ダイヤルアップネットワークでの設定」の手順4（☛P43）で接続先の電話番号を入力するときに、P127の手順1と同様の形式（「XXXXXXXXXX＊YYYYYYYYYY#32」）で入力します。「XXXXXXXXXX」が手順4（☛P128）で登録したPTE番号1～3のいずれかと一致していれば、作成した接続先を「ダイヤルアップネットワーク」で選ぶたびに、PTE手順でダイヤルされます。

PHS公衆モードでのデータ通信について

通信速度を指定してダイヤルする方法

本商品は、接続先の電話番号のあとに「#32」を付加すると32 kbpsで接続し、「#64」を付加すると64 kbpsで接続しようとします。

- 64kPIAFS非対応で32kPIAFS対応のアクセスポイントに接続する場合には、接続先の電話番号のあとに「#32」を付加し、32 kbpsで接続してください。
  この場合、Sレジスタ（S141）で設定された通信速度よりも、この「#32」または「#64」を付加して設定した通信速度を優先してダイヤルします。

フォールバック機能について

フォールバック機能がONに設定されているとき、64Kデータ通信ができない場合、自動的に32 kbpsに通信速度を落として再ダイヤルします。この場合には、フォールバック動作のため、接続するまでの時間が長くかかることがありますが、フォールバック動作中の時間は接続料金に含まれません。フォールバックして接続した場合、通信速度を落としているため、ダウンロード/アップロードなどのファイル転送に必要となる時間が長くかかることがあります。
64Kデータ通信ができない場合には、以下のケースがあります。

- 公衆基地局が混雑している
- 接続先が64Kデータ通信に対応していない
- 公衆基地局が64Kデータ通信に対応していない
  など

お知らせ

- 64Kデータ通信で発信し、64kPIAFS非対応で32kPIAFS対応のアクセスポイントに誤って接続した場合、フォールバックはされず、いったん接続されたあとに切断されることがあります。
  その場合は、通話料が加算されますのでご注意ください。
  64Kデータ通信で接続する場合は、必ず64kPIAFS対応のアクセスポイントに接続してください。

発信者番号通知について

通信ソフトの設定でATコマンドの「#SB1」を「#SB0」に変更すると、NTTドコモのPIASネット、moperaネットサーフィンのサービスが受けられません。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、修理に出す前に次の点を確認してください。

こんなとき	原　因	確認してください	参照ページ
付近のテレビやラジオに雑音が入る	本商品はディジタル電子機器のため、本質的に、ある程度の電磁的なノイズを発生します	テレビなどから本商品を離して置いてください	―
本商品が認識できない	パソコンのカードスロットにしっかり差し込んでいない	パソコンのカードスロットに正しく差し込んでください	☛P26
	付属のモデム情報ファイルをインストールしていない	最初に本商品を使うときは、必ずモデム情報ファイルをインストールしてください	☛P31、36、52、57
	コントロールパネルに［PCMCIA］や［PCカード（PCMCIA）］がない	コントロールパネルの［ハードウェアの追加］アイコンをダブルクリックしてインストールしてください	―
相手先に回線がつながらない	接続先の電話番号が合っていない	正しい番号を設定してください	☛P43
	市外局番を入力していない	同じ区域内でも市外局番から入力してください	―
	圏外にいる	SPEEDランプが消えていないか確認してください。消えていたら、緑色に点滅する場所に移動してご使用ください	☛P22
	［ダイヤル方法］の設定が［パルス］になっている	［トーン］に設定してください	☛P34、41、55
	回線が混雑している	しばらく時間をおいてから、お試しください	―

（次ページへ続く）

故障かな？と思ったら

こんなとき	原　因	確認してください	参照ページ
相手先に回線はつながるが、すぐ切れる	ユーザ名、パスワードが違っている	大文字と小文字、全角と半角などは間違いやすいのでご注意ください	—
	TCP/IPの設定が違っている	設定内容はプロバイダに確認してください	—
	相手先がPIAFS対応でない	PTE経由で接続してください	☛P125
	通信パラメータの設定が違っている	回線速度やプロトコルが、接続先の設定と一致しているかどうか確認してください	—
	通信回線の状態が悪い	通信速度を遅く設定して接続してみてください	—
文字が化ける	接続先のモデムと、エラー訂正やデータ圧縮についてのプロトコルが合致していない	双方のプロトコル設定を一致させてください	—
	パソコンとカード間のフロー制御の方式が一致していない	XON/XOFF方式またはRS/CS方式を一致させてください	—
通信ソフトで操作できない（パソコンからコマンドを受け付けない）	パソコンのカードスロットにしっかり差し込んでいない	パソコンのカードスロットに正しく差し込んでください	☛P26
	アプリケーションの使用中に誤って本商品の抜き差しを行った	パソコンをリセットするか、アプリケーションソフトを再起動してください	—
	通信ソフトで指定した動作パラメータと、イネーブラに対してパラメータファイルで指定した動作パラメータが一致していない	通信ソフトでI/Oアドレスや割り込みレベル、通信パラメータなどの指定を確認してください	—
	I/Oアドレスや割り込みレベルが他の周辺機器と競合している	競合しない値を使用してください	—
再ダイヤルできない	ATコマンドのATDLまたはATDNを正しく入力していない	正しく入力してください	☛P100、104
	発信規制内に再発信している	3分以内の再発信は2回までに規制されています	—

こんなとき	原　因	確認してください	参照ページ
ＳＰＥＥＤとMODEの両方のランプが赤色で点灯している	パソコンのバッテリが残り少ない	パソコンを電源アダプタにつないで使用してください	—
	パソコンからカードスロットに電源が供給されていない	カードスロットにDC3.3 Vの電源を供給できる機種かどうか、パソコンの取扱説明書で確認してください	—

用語集

ATコマンド	米国Hayes社が開発、米国で最も普及しているモデム用コマンド体系です。
bps	Bit per secondの略で、1秒間に送信できるデータビット数を表す単位です。
CFカード	「コンパクトフラッシュ」を参照。
DTE	Data Terminal Equipmentの略で、データ端末装置のこと。 通常、パソコンのことをいいます。「DTE速度」は、パソコンと本商品の間のデータ通信速度です。
LAPM	Link Access Procedure Modemの略で、ITU-T V.42に規定されているエラー制御プロトコルです。通信回線上でのエラーが自動的に訂正されるので、文字化けなどのない快適な通信が行えます。
MNP	Microcom Networking Protocolの略で、アメリカのマイクロコム社が開発した、エラー訂正機能付きデータ通信プロトコル（手順）です。
PCMCIA/ JEIDA **PC Card Standard 95**	"Personal Computer Memory Card International Association" と "Japan Electronic Industry Development Association"「日本電子工業振興協会」の略。 この2つが共同で規格化した「PC Card Standard 95」に準拠した周辺機器をPCカードと呼びます。
PIAFS	PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSを使用したデータ通信の標準方式です。
エラー訂正機能	データ通信中、状況によりエラーが発生しデータが正しく伝達されないことがあります。この機能はエラーが発生したことを検出し、送信を再度行うことで正しい通信を行う機能のことをいいます。
コンパクトフラッシュ	米国SanDisk社が開発した小型メモリカード "CompactFlash" をもとに作られた、小型のカード型機器用インタフェースの共通規格。
全二重通信	通信時、送受信を同時に行う通信のことで、一般電話のように双方が同時に話すことができる通信方式です。
通信速度	通信を行う速度のこと。本書では、何もことわりがない場合、本商品と公衆基地局との間のデータ通信速度です。通常bpsで表します。PIAFS対応のPHSデータ通信速度は、64 kbps/32 kbpsです。
フロー制御	データ通信中、パソコンからモデムなどに送られるデータ量がモデムなどから通信網に送り出すデータ量を上回ることがあります。このような場合、モデムなど内のデータがあふれ正しく通信できなくなります。これを防ぐため、データの送受信の制御を行うことをいいます。

索　引

数字

アルファベット

五十音

[あ]

[か]

[さ]

[た]

[は]

索　引

[ま]

[ら]

仕　様

適用回線	公衆PHS網（公衆/OA）、自営PHS網（OS）、 デュアルモード：オート（公衆＋OS/OS＋OA/OS）、公衆
DTEインタフェース	コンパクトフラッシュ TYPE II （アダプタ使用時、PCカード TYPE II インタフェース対応）
DTE速度	2 400/4 800/9 600/19 200/38 400/57 600/115 200 bps
ATコマンド	Hayes社　ATコマンド準拠
FAXコマンド	なし
携帯電話・PHS I/F	なし
通信速度	64Kデータ通信：58.4 kbps 32Kデータ通信：29.2 kbps
データ圧縮／伸長	なし
電源	DC 3.3 V（カードスロットより供給）
消費電力	64Kデータ通信時　：380 mW　（LED点灯禁止時） 　　　　　　　　　：430 mW　（LED点灯時） 32Kデータ通信時　：270 mW　（LED点灯禁止時） 　　　　　　　　　：330 mW　（LED点灯時） 待ち受け時　　　　：　3 mW　（LED点灯禁止時） 　　　　　　　　　：　75 mW　（LED点灯時）
外形寸法	約42.8 (W)×約51.4 (D)×約5.0 (H) mm（Hは一部6 mm） （本体のみ、アンテナ収納時、付属品含まず）
質量	約17 g（本体のみ、付属品含まず）
対応OS	Windows® 95/98/Me/2000またはWindows® CE対応機種（一部機種を除く）で、下のいずれかの規格に適合したもの ・コンパクトフラッシュ： 　CF+ and Compact Flash Specification Revision 1.4 準拠以上 ・PCカード：PC Card Standard 95 準拠以上
エラー訂正	PIAFS
音声通話機能	なし
無線区間インタフェース	RCR STD-28 第3.2版 準拠
データ通信規格	PIAFS（PHS Internet Access Forum Standard Ver2.0準拠）
JATE認証番号	A00-1116JP

保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用･部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

●故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの１１３番へご連絡ください。

●お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの１１４番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービス料金については、ＮＴＴ通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120-109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO

7LC127B

この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：http://www.ntt-east.co.jp/ced/
http://www.ntt-west.co.jp/kiki/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120－109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

NTT

本2151-1（2000.11）
W-64C1トリセツ